

シラバスを参照したい科目をクリックしてください。



タイトル	開講所属	時間割コード	授業科目名				主担当教員	対象年次	学期	曜日・校時	開講期間
2013年度シラバス（教養教育科目）	教養教育-教養教育 英語科目	20130590005001	●英語コミュニケーションⅢ(2T7)	和	E	評	前川智子	2年,3年,4年	前期	月 1	～
2013年度シラバス（教養教育科目）	教養教育-教養教育 英語科目	20130590005002	●英語コミュニケーションⅢ(2L2)	和	E		村岡三奈子	2年,3年,4年	前期	木 2	～
2013年度シラバス（教養教育科目）	教養教育-教養教育 英語科目	20130590005003	●英語コミュニケーションⅢ(2M6)	和	E		吉村宗司	2年,3年,4年	前期	火 2	～
2013年度シラバス（教養教育科目）	教養教育-教養教育 英語科目	20130590005004	●英語コミュニケーションⅢ(2M4)	和	E	評	山崎有介	2年,3年,4年	前期	火 2	～
2013年度シラバス（教養教育科目）	教養教育-教養教育 英語科目	20130590005005	●英語コミュニケーションⅢ(2L1)	和	E	評	藤内則光	2年,3年,4年	前期	木 2	～
2013年度シラバス（教養教育科目）	教養教育-教養教育 英語科目	20130590005006	●英語コミュニケーションⅢ(2E6)	和	E		上村俊彦	2年,3年,4年	前期	金 2	～
2013年度シラバス（教養教育科目）	教養教育-教養教育 英語科目	20130590005007	●英語コミュニケーションⅢ(2M5)	和	E		川島浩勝	2年,3年,4年	前期	火 2	～
2013年度シラバス（教養教育科目）	教養教育-教養教育 英語科目	20130590005008	●英語コミュニケーションⅢ(2M1)	和	E		香川実成	2年,3年,4年	前期	月 1	～
2013年度シラバス（教養教育科目）	教養教育-教養教育 英語科目	20130590005009	●英語コミュニケーションⅢ(2T8)	和	E		濱崎大	2年,3年,4年	前期	月 1	～
2013年度シラバス（教養教育科目）	教養教育-教養教育 英語科目	20130590005010	●英語コミュニケーションⅢ(2E5)	和	E		濱崎大	2年,3年,4年	前期	金 2	～
2013年度シラバス（教養教育科目）	教養教育-教養教育 英語科目	20130590005011	●英語コミュニケーションⅢ(2T10)	和	E	評	藤本ゆかり	2年,3年,4年	前期	月 1	～
2013年度シ	教養教育-教		●英語コミュニ								

ラバス（教養教育科目）	養教育 英語科目	20130590005012	ケーションⅢ(2E8)	和	E		藤本 ゆかり	2年,3年,4年	前期	金 2	～
2013年度シラバス（教養教育科目）	教養教育-教養教育 英語科目	20130590005013	●英語コミュニケーションⅢ(2M3)	和	E		西原 真弓	2年,3年,4年	前期	月 1	～
2013年度シラバス（教養教育科目）	教養教育-教養教育 英語科目	20130590005014	●英語コミュニケーションⅢ(2D1・2)	和	E		西原 真弓	2年,3年,4年	前期	月 2	～
2013年度シラバス（教養教育科目）	教養教育-教養教育 英語科目	20130590005015	●英語コミュニケーションⅢ(2T9)	和	E	評	ローン 悦子	2年,3年,4年	前期	月 1	～
2013年度シラバス（教養教育科目）	教養教育-教養教育 英語科目	20130590005016	●英語コミュニケーションⅢ(2E7)	和	E	評	宇佐美 康子	2年,3年,4年	前期	金 2	～
2013年度シラバス（教養教育科目）	教養教育-教養教育 英語科目	20130590005017	●英語コミュニケーションⅢ(2T6)	和	E		廣江 顕	2年,3年,4年	前期	月 1	～
2013年度シラバス（教養教育科目）	教養教育-教養教育 英語科目	20130590005018	●英語コミュニケーションⅢ(2P1)	和	E		廣江 顕	2年,3年,4年	前期	木 2	～
2013年度シラバス（教養教育科目）	教養教育-教養教育 英語科目	20130590005019	●英語コミュニケーションⅢ(2L3)	和	E	評	小笠原 真司	2年,3年,4年	前期	木 2	～
2013年度シラバス（教養教育科目）	教養教育-教養教育 英語科目	20130590005020	●英語コミュニケーションⅢ(2M2)	和	E		隈上 麻衣	2年,3年,4年	前期	月 1	～
2013年度シラバス（教養教育科目）	教養教育-教養教育 英語科目	20130590005021	●英語コミュニケーションⅢ(2E1)	和	E		前川 智子	2年,3年,4年	後期	金 1	～
2013年度シラバス（教養教育科目）	教養教育-教養教育 英語科目	20130590005022	●英語コミュニケーションⅢ(2F2)	和	E		村岡 三奈子	2年,3年,4年	後期	木 2	～
2013年度シラバス（教養教育科目）	教養教育-教養教育 英語科目	20130590005023	●英語コミュニケーションⅢ(2K4)	和	E		山崎 有介	2年,3年,4年	後期	火 1	～
2013年度シラバス（教養教育科目）	教養教育-教養教育 英語科目	20130590005024	●英語コミュニケーションⅢ(2L6)	和	E		藤内 則光	2年,3年,4年	後期	木 1	～
2013年度シラバス（教養教育科目）	教養教育-教養教育 英語科目	20130590005025	●英語コミュニケーションⅢ(2F3)	和	E		藤内 則光	2年,3年,4年	後期	木 2	～
2013年度シラバス（教養教育科目）	教養教育-教養教育 英語科目	20130590005026	●英語コミュニケーション	和	E		山口 敦子	2年,3年,4年	後期	木 1	～

目)	語科目		Ⅲ(2L4)								
2013年度シラバス（教養教育科目）	教養教育-教養教育 英語科目	20130590005027	●英語コミュニケーションⅢ(2L5)	和	E		上村俊彦	2年,3年,4年	後期	木 1	～
2013年度シラバス（教養教育科目）	教養教育-教養教育 英語科目	20130590005028	●英語コミュニケーションⅢ(2P2)	和	E		上村俊彦	2年,3年,4年	後期	木 2	～
2013年度シラバス（教養教育科目）	教養教育-教養教育 英語科目	20130590005029	●英語コミュニケーションⅢ(2E3)	和	E		山田健太郎	2年,3年,4年	後期	金 1	～
2013年度シラバス（教養教育科目）	教養教育-教養教育 英語科目	20130590005030	●英語コミュニケーションⅢ(2K1)	和	E		川島浩勝	2年,3年,4年	後期	火 1	～
2013年度シラバス（教養教育科目）	教養教育-教養教育 英語科目	20130590005031	●英語コミュニケーションⅢ(2T4)	和	E		香川実成	2年,3年,4年	後期	月 2	～
2013年度シラバス（教養教育科目）	教養教育-教養教育 英語科目	20130590005032	●英語コミュニケーションⅢ(2K2)	和	E		大坪有実	2年,3年,4年	後期	火 1	～
2013年度シラバス（教養教育科目）	教養教育-教養教育 英語科目	20130590005033	●英語コミュニケーションⅢ(2T5)	和	E		濱崎大	2年,3年,4年	後期	月 2	～
2013年度シラバス（教養教育科目）	教養教育-教養教育 英語科目	20130590005034	●英語コミュニケーションⅢ(2T2)	和	E		藤本ゆかり	2年,3年,4年	後期	月 2	～
2013年度シラバス（教養教育科目）	教養教育-教養教育 英語科目	20130590005035	●英語コミュニケーションⅢ(2E4)	和	E		藤本ゆかり	2年,3年,4年	後期	金 1	～
2013年度シラバス（教養教育科目）	教養教育-教養教育 英語科目	20130590005036	●英語コミュニケーションⅢ(2T1)	和	E		西原真弓	2年,3年,4年	後期	月 2	～
2013年度シラバス（教養教育科目）	教養教育-教養教育 英語科目	20130590005037	●英語コミュニケーションⅢ(2T3)	和	E		ローン悦子	2年,3年,4年	後期	月 2	～
2013年度シラバス（教養教育科目）	教養教育-教養教育 英語科目	20130590005038	●英語コミュニケーションⅢ(2K3)	和	E		西原 俊明	2年,3年,4年	後期	火 1	～
2013年度シラバス（教養教育科目）	教養教育-教養教育 英語科目	20130590005039	●英語コミュニケーションⅢ(2F1)	和	E		小笠原真司	2年,3年,4年	後期	木 2	～
2013年度シラバス（教養教育科目）	教養教育-教養教育 英語科目	20130590005040	●英語コミュニケーションⅢ(2E2)	和	E		小笠原真司	2年,3年,4年	後期	金 1	～



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月 1
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20130590005001	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2T7)		
編集担当教員	前川 智子		
授業担当教員名(科目責任者)	前川 智子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	前川 智子		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養A棟]A-14		
対象学生（クラス等）	(2T7)		
担当教員Eメールアドレス	t-mae@asca.iso.jp		
担当教員研究室	非常勤講師控え室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	授業終了後10分		
授業のねらい	自分のこと（詳しい自己紹介）や日常生活（週末のこと、病気や怪我をしたときのこと、休暇中のことなど）を英語で会話したり、人前で大きな声で話せるようになることがねらいである。		
授業方法（学習指導法）	コース前半では詳しい自己紹介をするための準備(表現を覚えるなど)と会話練習を行う。後半では日常会話を学びながら、毎回ペアやグループ内でスキットを読みあったり、週末の出来事などを話す練習を行う。スピーチの準備として、教科書のスキットを元にエッセイを書き（宿題）、それを応用して自分自身の出来事を英語で書く（宿題）。更に、それを暗記してクラスで発表する（スピーチ）。コースを通して一人5回の短いスピーチを行う。教員は原則として英語で指導するので、説明を聞く際にも集中しておくこと。学生もペアやグループ内で話すときも出来るだけ英語で話すように心がけ、授業時間全体を英語コミュニケーションの時間としたい。overlapping, shadowing を行い、英語らしい発音・イントネーションを習得すると共に、リスニング力も向上させる。		
授業到達目標	自分のこと（出身、クラブ、アルバイト、仕事、趣味、旅行）や家族のことを英語で詳しく書き、人前で堂々と話すことが出来る。週末や休暇中の出来事などを英語で書き、人前で堂々と話すことが出来る。また、その過程において、英語の読解力・語彙力、発音・イントネーション、リスニング力が上達する。		
	第 1回 Orientation 教科書販売、授業の進め方、スピーチの仕方など / Skit 1: Nice to Meet You, Skit2: Family（会話）Junの自己紹介文の書き方、JunとHiroの自己紹介文・自分の自己紹介文を書く（宿題） 第 2回 Skit 3~6: Clubs and Jobs、Hobbies、Traveling、Food and Cooking、更に長いJunとHiroの自己紹介文・自分の自己紹介文を書く（宿題） 第 3回 JunやHiroの自己紹介文・自分の自己紹介文の音読練習、Skit 1～7練習、スピーチの仕方について 第 4回 <自分の自己紹介文の最終原稿（パソコンうち）提出> スピーチ 1：自己紹介（一班） 第 5回 スピーチ 1：自己紹介（二班） Skit8: What's New?、Skit9: How Was Your		

授業内容	Weekend? 会話練習、会話文からケン、リカ、ナオト、カオルのことについて（宿題） 第 6回 Skit 8, 9 の練習、会話練習。上記宿題の音読練習。 自分の週末などについて書く（宿題） 第 7回 会話練習、スピーチ練習 第 8回 スピーチ2：週末についてなど（1分以上、全員） Skit 10 を読んで、ヤスとミカについて書く（宿題） 第 9回 Skit 10: What's Wrong with You? 会話練習。上記宿題の音読練習。自分や家族が病気・怪我などをした時のことを書く（宿題） 第10回 スピーチ3：病気・怪我・失敗談など（1分以上、全員） Skit 12を読んで、マリとユウタについて書く（宿題） 第11回 Skit 12: We're Having a Party 会話練習。上記宿題の音読練習。 パーティや楽しかったイベントなどについて書く（宿題） 第12回 スピーチ4：パーティー、イベント、楽しい話など（1分以上、全員） Skit11を読んで、タロウとアキについて書く（宿題） 第13回 Skit 11: What Are You going to Do in the holiday? 会話練習。上記宿題の音読練習。夏休みの計画、将来の計画などについて書く（宿題） 第14回 <スピーチ5の原稿（パソコンうち）提出> スピーチ練習 第15回 一班：スピーチ5：夏休みの計画、将来の計画などについて（3分以上） 二班：スピーチ観賞と評価（評価レポート提出） 第16回 二班：スピーチ5：夏休みの計画、将来の計画などについて（3分以上） 一班：スピーチ観賞と評価（評価レポート提出）
キーワード	Speaking
教科書・教材・参考書	「English Communication in the Classroom」（開文社出版、前川智子編著）
成績評価の方法・基準等	E-Learning 20 % スピーチ5回 60 % （15x2、10x3） 課題提出・授業中の活動 20 % (提出課題は期限厳守のこと)
受講要件（履修条件）	原則として全回出席をしなければ単位は成立しない。5回以上欠席すると単位は取得できない。スピーチ発表が5回あるので欠席しないように。スピーチ発表日に病気などやむを得ない理由で欠席した場合は翌週の授業で追試験の機会を設けるが、最終発表欠席は正式な手続きが必要となる。30分以上の遅刻・早退は原則として欠席扱いとする。
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	積極的に話を聞く・話す態度が身に付く
備考（URL）	
備考（準備学習等）	毎回宿題を出すので、それを行った上で授業に臨むこと。提出課題は授業開始前に提出のこと。





タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木 2
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20130590005002	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2L2)		
編集担当教員	村岡 三奈子		
授業担当教員名(科目責任者)	村岡 三奈子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	村岡 三奈子		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養A棟]A-32		
対象学生（クラス等）	(2L2)		
担当教員Eメールアドレス	muraoka@n-junshin.ac.jp		
担当教員研究室	非常勤講師室		
担当教員TEL	095-846-0084		
担当教員オフィスアワー	随時		
授業のねらい	映画を教材として、場面や状況に応じた生きた英語表現を身につけることを目指す。		
授業方法（学習指導法）	原則として、毎週、テキストを1章ずつ進めながら、英語の4技能をバランスよく学習する。		
授業到達目標	基本的構文および文法事項に留まらず、生きた英語表現や文化的知識を身につけることが出来る。		
授業内容	回	内容	
	1	4月4日：イントロダクション	
	2	4月11日：第1章	
	3	4月18日：第2章	
	4	4月25日：第3章	
	5	5月2日：第4章	
	6	5月9日：第5章	
	7	5月16日：第6章	
	8	5月23日：第7章	
	9	5月30日：第8章	
	10	6月6日：第9章	
	11	6月13日：第10章	
	12	6月20日：第11章	
	13	6月27日：第12章	

	14	7月4日：第13章
	15	7月11日：第14章
	16	7月25日：定期試験
キーワード		
教科書・教材・参考書	Step Up with Movie English (KINSEIDO)	
成績評価の方法・基準等	出席・授業態度：10% 小テスト：10% 課題：10% 定期試験：50% 課外学習の e-learning：20% （詳細は第 1 回目の授業で説明）	
受講要件（履修条件）		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考（URL）		
備考（準備学習等）		





タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火 2
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20130590005003	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2M6)		
編集担当教員	吉村 宗司		
授業担当教員名(科目責任者)	吉村 宗司		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	吉村 宗司		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養G棟]G-38		
対象学生（クラス等）	(2M6)		
担当教員Eメールアドレス	soshi@tea.ocn.ne.jp		
担当教員研究室	非常勤講師控室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	授業終了後（12:00～12:20／授業時の教室）		
授業のねらい	対話や会話といった、コミュニケーションを主要目的とする言葉のやりとりについては、なによりも相手を理解するための聴解力を基盤に持つことが必要である。発話力というのも聴解力あつての発話力であつて、聴解力さえ身につけば、発話力はそれに応じて自然にその進歩が期待できるものである。本講座では、これまで聞くことにあまり時間を割いてこなかった学校教育の弊害を可能な限り克服する意味で、サバイバル英語（米語） - 必要最低限の英語（米語） - を徹底的に学びながら、聴解力と発話力の増強を図ることを第一義的な目的に据えるものである。		
授業方法（学習指導法）	まずは、聴解力の増強に極めて効果的な英音・米音の音声的特徴や法則性（音法）について解説し、聴解力と発話力のバランスをとりながら、英語（米語）の運用能力を習得するトレーニングを行なっていく。なお、マテリアルとしては、日常会話表現や旅行英会話、洋楽、時事（ニュース）等、実用性の高いものを取り上げていく予定である。		
授業到達目標	本講座の受講によって、これまで英米語のリスニングに際し、疑問であったことが解消されるはずである。また、受講者のトレーニング次第では、外国人との英会話をはじめ、洋楽、映画、英語ニュースの視聴時に、上達の喜びを体感できるものと思われる。『英語が止まって聞こえる』ようになることを究極の目標に掲げる。		
	授業内容（概要） 前半は、聴解力を増強させるうえで必須となる音声に関する知識の基礎固めを行なう。具体的には、基礎知識、及びリスニングに極めて有効な英音・米音の音声的特徴と法則性（音法）の習得である。中盤から後半は、リスニングとスピーキングのバランスをとりながら、発音矯正と並行して発話力の増強を目指す。限られた時間で実用英米語運用能力を促進させるトレーニングを行なっていくとともに、必要に応じて比較文化的視座から文化に関する実利的なトピックも織り交ぜつつ、言語と文化を包括して共時的に学ぶことを視野に入れた解説も展開する。		
	回	内容	
	1	オリエンテーション（授業方針についての説明、教材の配布、アンケートほか）	
	2	『なぜ日本人は英語の聞き取りが苦手なのか？』－分析結果の報告と対策法について	

授業内容	3	プレテスト、つながる音とカタカナ英語、近似カナ表記、母音、半母音/j/, /w/, /r/
	4	/r/と/l/の発音、子音、調音形式、調音点、有声音と無声音、閉鎖音についての解説
	5	子音の分類表を基にした音素に関する基礎知識の確認、単語レベルの発音クリニック
	6	『音の連結』を聞き取るパターン（リエゾンの原則）、/t/, /d/, /g/の脱落、/t/, /d/のラ行音化
	7	連結しない場合の/l/, /h/の脱落、半母音/j/, /n/+t/と/n/+d/による音変化
	8	『閉鎖音の連続による脱落』、『同じ子音の連続による脱落』を聞き取るパターン
	9	『同化』を聞き取るパターン(1)（半母音/j/に絡む音変化①）
	10	『同化』を聞き取るパターン(2)（半母音/j/に絡む音変化②）、『調音点が近い子音の連続』を聞き取るパターン
	11	『同化』を聞き取るパターン(3)（/n/の後続音への影響）
	12	On an Airplane(1)
	13	On an Airplane(2)、VTR視聴
	14	At an Airport(1)、洋楽を聞き取る
	15	At an Airport(2)、洋楽を聞き取る、まとめ
	16	定期試験 ※毎回、詳細に解説を施す予定であるため、上記の進度設定を変更する場合もある。なお、基本的な音法を習得した後に旅行英会話等への応用を試みるが、解説やトレーニングに加え、比較文化的視座から実利的なトピックも交えつつ講義を進めていく。
キーワード	音法	
教科書・教材・参考書	(1) 英語リスニング - 聞き取るための入門講座（ハンドアウト教材） (2) American（ハンドアウト教材） (3) アメリカの生活と文化（VTR教材）	
成績評価の方法・基準等	定期試験60%、受講態度、及び授業中の発表20%、課外学習のe-learning20%（3 Step CALL10%、PowerWords10%）等の総合判定によって評価を行なう。なお、課外学習のe-learningに関しては第1回目の授業の際に説明する。	
受講要件（履修条件）	配布された教材に対する予習復習は必須である。特に、毎時学んだ内容に関し、毎日のトレーニングを継続させることによって、実用英米語運用能力の促進が可能となる。したがって、復習に力点を置いた学習姿勢が望まれる。	
本科目の位置づけ	本科目は、英語の四技能習得のうち、実用英語運用能力、即ちリスニングとスピーキングの能力を促進させることに力点を置いた位置づけである。	
学習・教育目標	英語国民と円滑なコミュニケーションを図ることができるレベルのリスニング力とスピーキング力を習得することが目標である。また、並行してTOEICテストや各種英語検定試験などのリスニング部門で高得点をあげることも目標に掲げたい。	
備考（URL）		
備考（準備学習等）	辞書、あるいは電子辞書を準備する。授業時間内での学習のみで能力を促進させるには限界があるため、例えばNHK教育テレビやラジオの語学番組等を視聴、聴取するなど、とにかく毎日英語に接する時間を捻出することが望ましい。英語に親しむことを習慣にできれば上達は必ず期待できる。限られた時間ですが、一緒にがんばりましょう!!	





タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火 2
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20130590005004	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2M4)		
編集担当教員	山崎 有介		
授業担当教員名(科目責任者)	山崎 有介		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山崎 有介		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養B棟]B-15		
対象学生（クラス等）	(2M4)		
担当教員Eメールアドレス	pro-1223@i-next.ne.jp		
担当教員研究室	非常勤講師室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	授業終了後		
授業のねらい	英語で表現された文学作品の中には、時事英語とは違う知性と感情あふれる表現が詰まっている。その表現を読み取ることで、英語のセンスを培ってほしい。		
授業方法（学習指導法）	語彙の確認、リスニングによる音声把握、音読による発音練習、英文の読解力と表現力を養う。		
授業到達目標	無理なく通常の英文が読め、聴覚力を養うことで、発音の向上を目指し、英語における表現力を豊かにしたい。TOEICや英検などの資格試験のスキルアップにも役立てたい。		
授業内容	毎回一つずつUnitを進む。Vocabulary Check! → Complete the Script!(Listening) → What Will Happen Next?(Reading) → Can You Answer? → What Do You Think? の流れで行う。		
	回	内容	
	1	Orientation & Unit 1 The Happy Prince: Part 1	
	2	Unit 2 The Happy Prince: Part 2	
	3	Unit 3 Black Beauty: Part 1	
	4	Unit 4 Black Beauty: Part 2	
	5	Unit 5 Twelfth Night: Part 1	
	6	Unit 6 Twelfth Night: Part 2	
	7	Unit 7 Twelfth Night: Part 3	
	8	Unit 7 & 前半のまとめ（筆記試験を含む）	
	9	Unit 8 The three Musketeers: Part 1	
	10	Unit 9 The three Musketeers: Part 2	

	11	Unit 10 The three Musketeers: Part 3
	12	Unit 11 A Connecticut Yankee in King Arthur's Court: Part 1
	13	Unit 12 A Connecticut Yankee in King Arthur's Court: Part 2
	14	Unit 13 A Connecticut Yankee in King Arthur's Court: Part 3
	15	Unit 14 A Connecticut Yankee in King Arthur's Court: Part 4
	16	後半のまとめ（定期試験を含む）
キーワード	Listening/Speaking/Reading/Writing/Vocabulary	
教科書・教材・参考書	Story Box: Gifts from Great Tellers (Cengage Learning)	
成績評価の方法・基準等	中間試験30%、定期試験30%、小テスト20%、課外学習のe-learning 20% (3 Step CALL10%、Power Words10%)	
受講要件（履修条件）		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考（URL）		
備考（準備学習等）		



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」
シラバスの詳細は以下となります。

戻る

学期	前期	曜日・校時	木 2
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20130590005005	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2L1)		
編集担当教員	藤内 則光		
授業担当教員名(科目責任者)	藤内 則光		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	藤内 則光		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養C棟]C-35(call1)		
対象学生（クラス等）	(2L1)		
担当教員Eメールアドレス	fujiuchi@tc.nagasaki-gaigo.ac.jp		
担当教員研究室	非常勤控室		
担当教員TEL	095-840-2000 (Ext 335)		
担当教員オフィスアワー	外語大335研究室にて随時・要確認		
授業のねらい	この授業では、伝達手段としての英語の基本的な技能と、特に読解能力と聴取能力の相関関係を解説した後、読解と聴解の能力を総合的に向上させる訓練を行う。最終的には、「読んで分かる英語」から「聞いて分かる英語」へと、受講生の英語力を向上させる。 また、この授業ではプロの教師の心構えも身につけていただきたい。		
授業方法（学習指導法）	CALL教室の機材を適宜活用し、与えられた英語のテキストの聴解に音読を加えた訓練方式。		
授業到達目標	CNN放送を聞いて内容を説明できる程度の英語運用能力の獲得を目的とする。		
授業内容	教科書は主教材と副教材の二種類を使用する。 授業開始当初は副教材を用い、基本的な英語の聴解とディクテーション、適宜発音指導を行い、採点結果を出席した証拠として回収するとともに、提出物として平常点に加算する。 主教材は、主に現代日本の時事に関するNHK BSのニュースを題材にしたDVD教材。第1回目のオリエンテーションにて受講生のリクエストを募り、以降、そのリクエストどおりに授業を進行させる。教科書にある英作文を課題として課し、提出させる。受講生は主教材付属のDVDを見て、事前に予習をすること。 授業の進行が明確に分かっているので、欠席者は次の授業の準備をすること。DVDを見る装置が自宅にない場合でも、図書館を利用するなどの方策を自分で考えること。教科書は設問に解答するだけでなく、本文の音読を予習や復習に取り入れること。1回視聴して内容を理解出来る程度の復習を前提にします。授業も最終試験も難しいので、常に復習を怠らないように。また、最終試験の評価割合が少ないので、時間外の学習を怠らないように。 定期試験 16回目開講時		
	回	内容	
	1	4/11 オリエンテーション、座席決定、教科書販売、期末試験の仕様発表、講義の心得確認	
	2	4/18 副教材 Unit 1、主教材 教科書 Unit 1、新章へ	
	3	4/25 副教材 Unit 3、主教材 教科書 1 課、新章へ	

	4	5/2 副教材 Unit 4、主教材 教科書 1 課、新章へ
	5	5/29 副教材 Unit 5、主教材 教科書 1 課、新章へ
	6	5/16 副教材 Unit 6、主教材 教科書 1 課、新章へ
	7	5/23 副教材 Unit 7、主教材 教科書 1 課、新章へ
	8	5/30 副教材 Unit 8、主教材 教科書 1 課、新章へ
	9	6/6 副教材 Unit 9、主教材 教科書 1 課、新章へ
	10	6/13 副教材 Unit 11、主教材 教科書 1 課、新章へ
	11	6/20 副教材 Unit 12、主教材 教科書 1 課、新章へ
	12	6/27 副教材 Unit 13、主教材 教科書 1 課、新章へ
	13	7/4 副教材 Unit 14、主教材 教科書 1 課、新章へ
	14	7/11副教材 Unit 21、主教材 教科書 1 課
	15	7/25 副教材 Unit 24、主教材 教科書 1 課
	16	8/1 定期試験 90分、提出物最終締め切り
キーワード		
教科書・教材・参考書	主教材：What's on Japan 7(金星堂) 副教材：Campus Listening(成美堂)	
成績評価の方法・基準等	全て主教材より 定期試験60%(単語理解8%、本文内容ディクテーション 14%（部分点あり）、内容理解28%、課題英作文 10%（部分点あり）) 平常点20%(英作文提出と副教材解答結果提出) 課外学習のe-learning 20% (3 Step CALL 10%、PowerWords10%) 課外学習のe-learningに関しては第 1 回目の授業の際に説明します。	
受講要件（履修条件）	教科書を購入し、英和辞典を必ず携行して授業に臨むこと。	
本科目の位置づけ		
学習・教育目標	実際に英語の実力を付けることで教科書の内容を理解させるのが目的なので、授業の予復習をしない学生の単位成立を保証しない。	
備考（URL）		
備考（準備学習等）		





タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 2
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20130590005006	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2E6)		
編集担当教員	上村 俊彦		
授業担当教員名(科目責任者)	上村 俊彦		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	上村 俊彦		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養A棟]A-41		
対象学生（クラス等）	(2E6)		
担当教員Eメールアドレス	yandi@sun.ac.jp		
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	本クラス開講前後の時間		
授業のねらい	履修者の英文法知識や英語彙力を、CEF B1レベルの英語運用能力まで高める。		
授業方法（学習指導法）	毎回、前週学習内容について、Dictation Quizをおこなう。 英文テキストを用いた音読演習、大意把握トレーニング等をおこなう。		
授業到達目標	中学・高校で学習した英語の基礎知識をもとに、社会人として求められる英語コミュニケーション力の養成をおこなう。		
授業内容	回	内容	
	1	Introduction（クラス学習と課外学習について、英文テキストの多読、Shoadowingについて）	
	2	Unit 1 Make Small Talk （ディクテーション&ロール・プレー訓練含む）	
	3	Unit 2 Health Matters （ディクテーション&ロール・プレー訓練含む）	
	4	Unit 3 Getting Things Done （ディクテーション&ロール・プレー訓練含む）	
	5	Unit 4 Reading for Pleasure （ディクテーション&ロール・プレー訓練含む）	
	6	Unit 5 Natural Disasters （ディクテーション&ロール・プレー訓練含む）	
	7	Grammar & Writing Booster 1 to 5 Unit 1-5 ディクテーション演習とMidterm Test	
		Unit 6 Life Plans	

	8	(ディクテーション&ロール・プレー訓練含む)
	9	Unit 7 Holidays and Traditions (ディクテーション&ロール・プレー訓練含む)
	10	Unit 8 Inventions and Discoveries (ディクテーション&ロール・プレー訓練含む)
	11	Unit 9 Controversial Issues (ディクテーション&ロール・プレー訓練含む)
	12	Unit 10 Beautiful World (ディクテーション&ロール・プレー訓練含む)
	13	Grammar & Writing Booster 6 to 10 Unit6-10ディクテーション演習
	14	多読テキスト演習 1
	15	多読テキスト演習 2
	16	Final Test
キーワード	CEF B1, Shadowing	
教科書・教材・参考書	Saslow, J. & Ascher, A. (2011). Top Notch 3 2nd ed. Pearson Longman	
成績評価の方法・基準等	クラス学習 70% (中間・期末テストのスコアに、クラス参加状況を考慮) レポート課題 10% 課外学習のe-learning 20% (3 Step CALL 10%、PowerWords10%)	
受講要件 (履修条件)	課外学習のe-learningとともに、クラス用テキストの音声教材を用いた事前学習を習慣化すること。	
本科目の位置づけ		
学習・教育目標	CEF B1レベルの教材を用いて、履修者の言語運用技能 (Reading/ Listening/ Speaking & Writing skills)の向上をめざす。	
備考 (URL)		
備考 (準備学習等)	Classroom Audio配布用のUSB(4GB 氏名等記入)を持参すること	





タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火 2
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20130590005007	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2M5)		
編集担当教員	川島 浩勝		
授業担当教員名(科目責任者)	川島 浩勝		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	川島 浩勝		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養C棟]C-35(call1)		
対象学生（クラス等）	(2M5)		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室	長崎外国語大学 3階334研究室		
担当教員TEL	095-840-2000（内線334）		
担当教員オフィスアワー	授業終了後、質問を受けつける。また、話し合いにより、後日、時間を設定する場合がある。		
授業のねらい	英語によるコミュニケーションを円滑に行うのに必要とされる口語英語の理解能力の基礎を作る。		
授業方法（学習指導法）	様々なタスクを用い、リスニングにフォーカスをあてた授業を行う。受講者が自己のリスニング能力を客観的に把握・理解できる場面が用意され、同時に、リスニングの学習法を学べるように授業が組み立てられている。		
授業到達目標	本授業の到達目標は、1) 口語英語のスピード・イントネーション・リズムに対応できる、2) リスニングに対応できる語彙数を増やす、3) 英語のミニマルペアーの聞き分けができる、4) 英語のミニマルペアーを正しく発音できる、5) 英語の連続音を正しく理解し、聞き取ることができる、である。		
授業内容	回	内容	
	1	授業方針の説明・英語力診断テスト	
	2	アメリカのドラマを題材にしたリスニングと口語英語の理解・整理1	
	3	アメリカのドラマを題材にしたリスニングと口語英語の理解・整理2	
	4	アメリカのドラマを題材にしたリスニングと口語英語の理解・整理3	
	5	アメリカのドラマを題材にしたリスニングとリスニングに対応した語彙力のアップ1	
	6	アメリカのドラマを題材にしたリスニングとリスニングに対応した語彙力のアップ2	
	7	アメリカのドラマを題材にしたリスニングとリスニングに対応した語彙力のアップ3	
	8	これまでの授業のまとめ	
	9	アメリカのドラマを題材にしたリスニングと母音・子音のミニマルペアーの整理・理解1	

	10	アメリカのドラマを題材にしたリスニングと母音・子音のミニマルペアーの整理・理解2
	11	アメリカのドラマを題材にしたリスニングと母音・子音のミニマルペアーの整理・理解3
	12	アメリカのドラマを題材にしたリスニングと連続音の整理・理解1
	13	アメリカのドラマを題材にしたリスニングと連続音の整理・理解2
	14	アメリカのドラマを題材にしたリスニングと連続音の整理・理解3
	15	アメリカのドラマを題材にしたリスニングと連続音の整理・理解4
	16	学期末試験
キーワード	口語英語・リスニング・語彙力・ミニマルペアー・連続音	
教科書・教材・参考書	基本的にはプリント教材を配布するが、第1回目の授業で実施する英語力診断テストの結果によっては、副教材を購入する場合がある。	
成績評価の方法・基準等	"レポート20%・学期末試験80%とする。なお、欠席1回でマイナス7点（正当な理由がある場合は考慮する）となる等の「授業ルール」があるので注意すること。詳細は、第1回目の授業で配布する資料を参照すること。 "	
受講要件（履修条件）		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考（URL）		
備考（準備学習等）		





タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月 1
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20130590005008	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2M1)		
編集担当教員	香川 実成		
授業担当教員名(科目責任者)	香川 実成		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	香川 実成		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養A棟]A-13		
対象学生（クラス等）	(2M1)		
担当教員Eメールアドレス	jissei@kwassui.ac.jp		
担当教員研究室	非常勤講師控室		
担当教員TEL	09043429702		
担当教員オフィスアワー	月曜日 12:00～12:30 非常勤講師控室		
授業のねらい	医療現場で交わされる種々の対話文のリスニング、ペアワークでのスピーキング、及び医療に関するパッセージのリスニング（及びリーディング）活動をおこない、英語コミュニケーション能力の総合的な向上を目指すとともに、医療英語に関する語彙の教科も目標とします。		
授業方法（学習指導法）	1 回目の授業で配布する授業計画表に基づく予習を前提とし、ペアワークを含む演習形式で授業を進めます。		
授業到達目標	①（医療）英語語彙については「音」、「意味・語法」、「スペリング」の3つを統合して使えるようになること、②リスニングについては、英語のリズム、結合・脱落といった音声現象を確認しつつ、定型表現に聞き慣れること、③最終的にはスピーキングにおいて②の内容を実践することを目標とします。		
授業内容	教科書のユニットで提示されるトピック、シチュエーションごとに、リスニングとスピーキングのアクティビティをペアワークを通しておこないます。毎回、次週内容の予習と前週内容の復習を兼ねた小テストを実施する予定です。		
	回	内容	
	1	授業概要と授業計画の説明 Introduction: Hospital Floors and Healthcare Professionals	
	2	Unit 1: Body Parts	
	3	Unit 2: Musculoskeletal System	
	4	Unit 3: Circulatory System	
	5	Unit 4: Respiratory System	
	6	Unit 5: Digestive System	
	7	Unit 6: Brain, Nervous System and Sensory System	
	8	Midterm Voculurary Test	

	9	Unit 7: Urinary System
	10	Unit 8: Reproductive System
	11	Unit 9: Endocrine System
	12	Unit 10: BLS (Basic Life Support) and ALS (Advanced Life Support)
	13	Unit 11: Rehabilitation
	14	Unit 12: Diet and Nutrition
	15	Final Vocabulary Test
	16	定期試験
キーワード		
教科書・教材・参考書	Maki Inoue & Tadashi Ihara, "Because We Care: English for Healthcare Professionals" (2009, Cengage Learning)	
成績評価の方法・基準等	定期試験40%、授業中の活動（小テスト含む）20%、ボキャブラリーテスト20%、課外学習のe-learning20%（3 Step CALL 10%、PowerWords 10%）課外学習のe-learningに関しては第1回目の授業で説明します。	
受講要件（履修条件）		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考（URL）		
備考（準備学習等）		





タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月 1
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20130590005009	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2T8)		
編集担当教員	濱崎 大		
授業担当教員名(科目責任者)	濱崎 大		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	濱崎 大		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養B棟]B-15		
対象学生（クラス等）	(2T8)		
担当教員Eメールアドレス	mohican007@hotmail.com 欠席報告はメールではなく、後日届けを提出してください。		
担当教員研究室	非常勤講師室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	非常勤講師室在可		
授業のねらい	英語でコミュニケーションを成立させるための様々なスキルを考え、これを実践します。今それぞれが持てる英語力で、最大限のコミュニケーション能力を習得出来るようにします。頭で英文を思い描くために、核となるイメージを養っていきます。また、Group Workを通して、コミュニケーションも豊かにとれるよう積極性を持てるようにします。		
授業方法（学習指導法）	理解ある同じ受講生とのコミュニケーションは、プレッシャーを軽減する利点があります。受講生同士ペアやグループを組み、その落ち着いた状況で教科書の会話例をもとにテーマに沿って会話を発展させていきます。		
授業到達目標	簡単な日常英会話を躊躇なく運用出来るようにします。		
	Text内の、各UnitにはTopicが設けられて基本的なConversationが成されています。そのTopicとConversationを基礎に各自、各グループで考えられるSituationを想定して、Conversationを展開して行きます。日本人に独特な、発音を出来るだけNativeに近いものに修正し、これまで学んできた英語をPracticalなものになるような授業にいたします。 下記には理想的な進行を計画として立てておりますが、クラスの能力によっては進行を遅くする場合も想定されます。		
	回	内容	
	1	4月8日 第1回 Introduction	
	2	4月15日 第2回 Unit 1 言語機能別英会話（1） Group Making	
	3	4月22日 第3回 Unit 2,3 言語機能別英会話(2),主語として便利なwe,you,they Mid-Term Examinationへ向けてTopicを決定	
	4	5月13日 第4回 Unit4,5 疑問文のパターン(1),(2)	
	5	5月20日 第5回 Unit 6,7 助動詞を使った文(1),(2)	

授業内容	6	5月27日 第6回 Preparation for the Mid-Term Examination
	7	6月3日 第7回 Mid-Term Examination; Skit Presentation (Group work)
	8	6月10日 第8回 Mid-Term Examination; Skit Presentation (Group work)
	9	6月17日 第9回 Unit 8 名詞節を使った文(1) Group Making
	10	6月24日 第10回 Unit 9 名詞節を使った文(2) Final Examinationに向けてTopicを決定
	11	7月1日 第11回 Unit 10,11,12 完了形の文、進行形、受動態の文、比較や程度を表す文
	12	7月8日 第12回 Unit 10,11,12 完了形の文、進行形、受動態の文、比較や程度を表す文
	13	7月5日 第13回 Unit 13,14,15 意識して動詞のパターンを話そう！
	14	7月22日 第14回 Unit 13,14,15 意識して動詞のパターンを話そう！
	15	7月29日 第15回 Final Examination, Group Presentation
	16	8月5日 第16回 Final Examination, Group Presentation
キーワード	脱受験英語 イメージからの英語表現へ	
教科書・教材・参考書	Let's Make a Skit Presentation (英宝社) 各自持っている参考書、辞書(英和、和英) この授業では、辞書はかなり重要です。	
成績評価の方法・基準等	Class Attendance and Participation: 15% 課外学習のe-learning 20% (3 Step CALL 10%、PowerWords10%) 課外学習のe-learningに関しては第1回目の授業の際に説明します。 Mid-Term Examination 25% Final Examination 40%	
受講要件(履修条件)	全講義出席が原則。ただし、正当な理由で欠席する場合は個人指導を行う。(課外クラブ活動に関しては正当な理由とは認められません。) 講義、演習の妨害行為はモラルとして自重してください。目に余る場合は、退室及び辞退を申し入れます。 欠席回数1/3以上は期末試験の受験資格がなくなります。	
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考(URL)		
備考(準備学習等)	中間、期末テストはGroup Workになり、Group内でのコミュニケーションも非常に重要になります。無断欠席、遅刻などは他の受講者にも非常に迷惑をかけることになるので、必ず責任ある態度で講義に望んでください。特に再履修の学生は、この点をよく考えてから決断してください。	





タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 2
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20130590005010	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2E5)		
編集担当教員	濱崎 大		
授業担当教員名(科目責任者)	濱崎 大		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	濱崎 大		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養A棟]A-32		
対象学生（クラス等）	(2E5)		
担当教員Eメールアドレス	mohican007@hotmail.com 欠席報告はメールではなく、後日届けを提出してください。		
担当教員研究室	非常勤講師室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	非常勤講師室在可		
授業のねらい	英語でコミュニケーションを成立させるための様々なスキルを考え、これを実践します。今それぞれが持てる英語力で、最大限のコミュニケーション能力を習得出来るようにします。頭で英文を思い描くために、核となるイメージを養っていきます。また、Group Workを通して、コミュニケーションも豊かにとれるよう積極性を持てるようにします。		
授業方法（学習指導法）	理解ある同じ受講生とのコミュニケーションは、プレッシャーを軽減する利点があります。受講生同士ペアやグループを組み、その落ち着いた状況で教科書の会話例をもとにテーマに沿って会話を発展させていきます。		
授業到達目標	簡単な日常英会話を躊躇なく運用出来るようにします。		
	Text内の、各UnitにはTopicが設けられて基本的なConversationが成されています。そのTopicとConversationを基礎に各自、各グループで考えられるSituationを想定して、Conversationを展開して行きます。日本人に独特な、発音を出来るだけNativeに近いものに修正し、これまで学んできた英語をPracticalなものになるような授業にいたします。 下記には理想的な進行を計画として立てておりますが、クラスの能力によっては進行を遅くする場合も想定されます。		
	回	内容	
	1	4月5日 第1回 Introduction	
	2	4月12日 第2回 Unit 1 言語機能別英会話 (1) Group Making	
	3	4月19日 第3回 Unit 2,3 言語機能別英会話(2),主語として便利なwe,you,they Mid-Term Examinationへ向けてTopicを決定	
	4	4月26日 第4回 Unit4,5 疑問文のパターン(1),(2)	
	5	5月10日 第5回 Unit 6,7 助動詞を使った文(1),(2)	

授業内容	6	5月17日 第6回 Preparation for the Mid-Term Examination
	7	5月24日 第7回 Mid-Term Examination; Skit Presentation (Group work)
	8	5月31日 第8回 Mid-Term Examination; Skit Presentation (Group work)
	9	6月7日 第9回 Unit 8 名詞節を使った文(1) Group Making
	10	6月14日 第10回 Unit 9 名詞節を使った文(2) Final Examinationに向けてTopicを決定
	11	6月21日 第11回 Unit 10,11,12 完了形の文、進行形、受動態の文、比較や程度を表す文
	12	6月28日 第12回 Unit 10,11,12 完了形の文、進行形、受動態の文、比較や程度を表す文
	13	7月5日 第13回 Unit 13,14,15 意識して動詞のパターンを話そう！
	14	7月12日 第14回 Unit 13,14,15 意識して動詞のパターンを話そう！
	15	7月19日 第15回 Final Examination, Group Presentation
	16	7月26日 第16回 Final Examination, Group Presentation
キーワード	脱受験英語 イメージからの英語表現へ	
教科書・教材・参考書	Let's Make a Skit Presentation (英宝社) 各自持っている参考書、辞書(英和、和英) この授業では、辞書はかなり重要です。	
成績評価の方法・基準等	Class Attendance and Participation: 15% 課外学習のe-learning 20% (3 Step CALL 10%、PowerWords10%) 課外学習のe-learningに関しては第1回目の授業の際に説明します。 Mid-Term Examination 25% Final Examination 40%	
受講要件(履修条件)	全講義出席が原則。ただし、正当な理由で欠席する場合は個人指導を行う。(課外クラブ活動に関しては正当な理由とは認められません。) 講義、演習の妨害行為はモラルとして自重してください。目に余る場合は、退室及び辞退を申し入れます。 欠席回数1/3以上は期末試験の受験資格がなくなります。	
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考(URL)		
備考(準備学習等)	中間、期末テストはGroup Workになり、Group内でのコミュニケーションも非常に重要になります。無断欠席、遅刻などは他の受講者にも非常に迷惑をかけることになるので、必ず責任ある態度で講義に望んでください。特に再履修の学生は、この点をよく考えてから決断してください。	





タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月 1
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20130590005011	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2T10)		
編集担当教員	藤本 ゆかり		
授業担当教員名(科目責任者)	藤本 ゆかり		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	藤本 ゆかり		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養A棟]A-41		
対象学生（クラス等）	(2T10)		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室	非常勤講師控室		
担当教員TEL	095-819-2078(全学教育事務室)		
担当教員オフィスアワー	月曜日 10時30分より		
授業のねらい	特色ある内容の教科書を通して、英語の基本的な能力をさらに伸ばし、英語での表現力を高める。リピーティングという方法により、英語の理解度を高めると同時に、話す為・書く為の英文を作り上げる能力と技能を伸ばす。また、この方法を繰り返して練習することで、聴く力を養う。総合的な英語の技能を定着させ、さらに向上させる。また、英文法の復習を行い、英語の基礎及び応用力を身に付ける。		
授業方法（学習指導法）	CDを用いながら、リピーティングを通して、ダイアログを声に出して読む訓練を行い、覚え、話す能力へと発展させていく。発音の指導を行うので、積極的に活動に参加する。テキストに解答を書き込んで、理解を確かなものにする。文法事項を説明する。英語習得の方法を詳しく指導する。		
授業到達目標	自分が言いたいことを英語で表現するための基本的な能力を養うことができる。英文を英語で理解し（読む・聴く）、英語で考えて英語を使う（話す・書く）能力の基本を養成することができる。発音の改善ができる。応用的な文法の運用ができるようになる。各自で目的を再認識し、英語の学習に対する意欲を持てるようになる。		
	教科書は、リピーティングの方法を用いた、特色あるものである。 リピーティングを中心にを行うことで、スピーキングとリスニングの能力を養う。 予習の準備段階を踏んだうえで、Lecture（あらかじめ読んでおくこと。）で英文法を復習し、CDを聴いてフレーズごとにリピーティングをし、文法に留意しながらダイアログを覚える。次に再びCDを聴いて、会話の表現をつくりあげるべく、リスニングをする。さらに、自分で英作文をしてダイアログを作成し、最後にライティングとして、日本に関する英文を書く活動をする。（教科書の問題部分に空白の箇所が無いように書き込んでいく。） また、英語の習得の方法について、詳細な指導を行う。 毎回の授業には、必ず予習をして臨みましょう。英単語の意味を調べ、英作文を自分で考えておきます。また、聴く・話すという能力は、毎日欠かさず練習しなくては向上しないので、テキスト付録のCDを用いて、自宅で予習と復習を必ず行ってください。自学が非常に重要な意味を持ちます。継続が大切であり、各自目標を定めて努力することを期待します。		

授業内容	回	内容
	1	4月 8日 導入・授業内容の説明
	2	4月15日 Unit 1
	3	4月22日 Unit 2・3
	4	5月13日 Unit 4
	5	5月20日 Unit 5
	6	5月27日 Unit 6
	7	6月 3日 Unit 7
	8	6月10日 Unit 8
	9	6月17日 Unit 9
	10	6月24日 Unit 10
	11	7月 1日 Unit 11
	12	7月 8日 Unit 12
	13	7月22日 Unit 13 ※ 翌日22日は、火曜日ですが月曜日の授業が行われます。
	14	7月23日 Unit 14 ※ 火曜日ですが、前日に続いて月曜日の授業を行います。
	15	7月29日 Unit 15
	16	8月 5日 定期試験
キーワード	リピーティング／スピーキング／リスニング／ダイアログ／英文法／英作文	
教科書・教材・参考書	Let's Make a Skit Presentation! 『ダイアログ中心のリスニング・スピーキング』（小笠原真司 他：英宝社） 英和辞典（電子辞書）を必携すること。	
成績評価の方法・基準等	定期試験の成績を80%、課外学習のe-earning20%（3 Step CALL 10%、Power Words10%）を基準とします。 定期試験を筆記で行います。課外学習のe-learningに関しては第1回目の授業の際に説明します。 また、受講中の活動や態度を非常に重視しますので、注意しましょう。	
受講要件（履修条件）	授業には、全回出席することを期待します。必ず予習をして臨みましょう。	
本科目の位置づけ	スピーキングとリスニング・スキルの定着と向上を図り、英語で表現する能力を養成する。	
学習・教育目標	スピーキングとリスニングを中心に、総合的な英語の能力を定着させる。	
備考（URL）		
備考（準備学習等）	授業には必ず予習をして臨んでください。英単語の意味をあらかじめ調べておき、文章の大意を掴んでおきます。	





タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 2
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20130590005012	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2E8)		
編集担当教員	藤本 ゆかり		
授業担当教員名(科目責任者)	藤本 ゆかり		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	藤本 ゆかり		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養A棟]A-13		
対象学生（クラス等）	(2E8)		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室	非常勤講師控室		
担当教員TEL	095-819-2078 (全学教育事務室)		
担当教員オフィスアワー	金曜日 2時30分より		
授業のねらい	基本的で実用的な英会話の表現を習得し、表現の基礎の定着を図る。話すことと聴くことの技能を身に付ける。暗記をするのみではなく、構文や文法に留意して、基本的な理解力を確かなものにする。語彙を増やし、文法を理解し、表現の感覚を磨く。対話力を向上させ、自分の言いたいことを表現できる豊かな表現力へと応用できる能力を養う。自分の言いたいことを表現できるコミュニケーションに対する意欲を持ち、自主的に話せるようになることを目的とする。英語の歌を通して、英米の文化を学ぶ。		
授業方法（学習指導法）	英語のフレーズの詳細な解説を行い、文法と構文、及び表現の指導をする。このことによって、英文を容易に覚えられるようになる。発音の練習をし、表現を声に出して発音する。声に出すことで覚えた英語のフレーズを使用してみる。リスニングの指導を行う。CDを活用し、何度も聴き、リピーティングを行うことで、スキルの定着を図る。		
授業到達目標	基本的・実用的な英文や英会話の表現を覚え、話すことができる。語彙力を増強することができる。英語の構文・文法・表現について理解を深めることができる。美しい発音ができ、リスニングの能力を養う。表現を声に出して述べるができる。基礎を固めた上で、自分が言いたいことを表現できるようになる。語彙を増やし、文法を身に付け、表現の応用ができるようになる。英会話とコミュニケーションに対する関心・興味を持ち、各自が目標を定めて積極的に学習の場を求めていく態度を養う。英語の歌や日常会話を通して、歌の背景や、英米の文化や歴史に対する理解を深めることができる。また、各自の現在の能力をさらに向上させるようにする。		
	英米の歌にみられる英語表現を中心として、重要な英文について、CDを聴きながら、主要な表現・構文・文法の指導を行う。構文や文法を理解することが、会話での表現の習得においても、容易にして有効であるというアプローチで進めていく。英単語の発音の仕方を指導し、練習を行う。文全体の発音についても指導と練習を繰り返し行い、定着を図る。さらに、ダイアログの表現を言えるように練習をし、覚え、ひいては話す能力を養う基礎を固めていく。また、話す能力と聴く能力は表裏一体であるという認識に基づいて、リスニングの方法を説明し、実践してみる。英米の歌とその背景について解説する。歌を通して、英会話とコミュニケーションに対する意欲をさらに持てるように指導していく。		

授業内容	回	内容		
	1	4月 5日	導入・授業内容の説明	
	2	4月12日	UNIT 4	
	3	4月19日	UNIT 5	
	4	4月26日	UNIT 6	
	5	5月10日	UNIT 8	
	6	5月17日	UNIT 10	
	7	5月24日	UNIT 11	
	8	5月31日	UNIT 12	
	9	6月 7日	UNIT 13	
	10	6月14日	UNIT 14	
	11	6月21日	UNIT 15・16	
	12	6月28日	UNIT 17・18	Foster's Songs
	13	7月 5日	UNIT 18・19（・20）	Foster's Songs
	14	7月12日	UNIT 25・26	Twin Songs
	15	7月19日	UNIT 26・27	
	16	8月 2日	定期試験	
キーワード	英米の歌 / 文法と発音の強化 / 英語表現の容易な定着 / コミュニケーションのための文化の理解			
教科書・教材・参考書	『英米人・日本人のこころの歌』（CD付き）（小笠原真司 / ウィリアム・コリンズ：英光社） 英和辞典（電子辞書）を必携すること。			
成績評価の方法・基準等	定期試験80％、課外学習の3-learning20％（3 Step CALL 10％、Power Words 10％）を基準とします。 定期試験を筆記で行います。 課外学習のe-learningに関しては、第1回目の授業の際に説明します。 また、受講中の活動や態度を非常に重視します。			
受講要件（履修条件）	授業には全回出席しましょう。発音など声を出しての活動は、積極的に参加することを期待します。必ず予習をして臨んで下さい。			
本科目の位置づけ	有用な英語の表現や日常会話を学び、役立てる。英語で表現する能力を養成する。			
学習・教育目標	英米の歌と対話形式により、実践的かつ有用な英語表現を身に付ける。			
備考（URL）				
備考（準備学習等）	必ず予習をして授業に出席して下さい。予め英単語の意味を調べておき、問題を解いておきましょう。			





タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月 1
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20130590005013	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2M3)		
編集担当教員	西原 真弓		
授業担当教員名(科目責任者)	西原 真弓		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	西原 真弓		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養A棟]A-31		
対象学生（クラス等）	(2M3)		
担当教員Eメールアドレス	nishihara@kwassui.ac.jp		
担当教員研究室	非常勤講師室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	メールで連絡をください		
授業のねらい	英語で自信を持って意見交換できる力をつけること。Native speakers の意見を聞き、それを理解し、その上で、自分の意見を英語で表現できるようにする。		
授業方法（学習指導法）	学生の関心度が高く議論しやすい幅広いジャンルのトピックをめぐり、ペアワークやグループディスカッションの形で、実際に自分の意見を表現していく。		
授業到達目標	英語で表現される相手の意見が正確に聞き取れるようになる。その意見の大意を表現できるようになる。さらに、それに対する自分の意見を表現できるようになる。		
授業内容	今日の社会で注目されている問題を把握し、自分の考えを英語で相手にうまく伝えるスキルを学ぶ。賛否両論の表現の仕方を学び、実際に議論していく。テキストの各章には、そのトピックに関連する統計の数字が提示されるので、データの分析し、その情報を意見の中に交えながら説得力のある自己表現を練習していく。		
	回	内容	
	1	The Internet	
	2	NEETS	
	3	Fashion	
	4	Environment	
	5	International marriage	
	6	Junk food	
	7	Paternity leave	
	8	Depopulation	
	9	Examinations	
	10	Animal testing	

	11	Temporary workers
	12	Robot care
	13	College
	14	Genetically modified food
	15	Welfare
	16	試験
キーワード	ディスカッション、データ、英語による自己表現	
教科書・教材・参考書	Gillian Flaherty著 「For and Against 賛否両論 ―英語で表現する社会問題―」（成美堂）	
成績評価の方法・基準等	定期試験50%、毎回提出する課題及び小テスト30%、課外学習のe-learning 20%（3 Step CALL 10%、PowerWords10%）課外学習のe-learningに関しては第1回目の授業の際に説明します。	
受講要件（履修条件）	ディスカッションの授業なので、出席をすることがまず大前提となります。遅刻は3回で1回分の欠席と見なします。ペアワークやグループディスカッションが多くなるため、遅刻・欠席は極力しないこと。	
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考（URL）		
備考（準備学習等）		





タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月 2
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20130590005014	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2D1・2)		
編集担当教員	西原 真弓		
授業担当教員名(科目責任者)	西原 真弓		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	西原 真弓		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養A棟]A-31		
対象学生（クラス等）	(2D1・2)		
担当教員Eメールアドレス	nishihara@kwassui.ac.jp		
担当教員研究室	非常勤講師室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	メールで連絡をください		
授業のねらい	英語で自信を持って意見交換できる力をつけること。Native speakers の意見を聞き、それを理解し、その上で、自分の意見を英語で表現できるようにする。		
授業方法（学習指導法）	学生の関心度が高く議論しやすい幅広いジャンルのトピックをめぐり、ペアワークやグループディスカッションの形で、実際に自分の意見を表現していく。		
授業到達目標	英語で表現される相手の意見が正確に聞き取れるようになる。その意見の大意を表現できるようになる。さらに、それに対する自分の意見を表現できるようになる。		
授業内容	今日の社会で注目されている問題を把握し、自分の考えを英語で相手にうまく伝えるスキルを学ぶ。賛否両論の表現の仕方を学び、実際に議論していく。テキストの各章には、そのトピックに関連する統計の数字が提示されるので、データの分析し、その情報を意見の中に交えながら説得力のある自己表現を練習していく。		
	回	内容	
	1	The Internet	
	2	NEETS	
	3	Fashion	
	4	Environment	
	5	International marriage	
	6	Junk food	
	7	Paternity leave	
	8	Depopulation	
	9	Examinations	
	10	Animal testing	

	11	Temporary workers
	12	Robot care
	13	College
	14	Genetically modified food
	15	Welfare
	16	試験
キーワード	ディスカッション、データ、英語による自己表現	
教科書・教材・参考書	Gillian Flaherty著 「For and Against 賛否両論 ―英語で表現する社会問題―」（成美堂）	
成績評価の方法・基準等	定期試験50%、毎回提出する課題及び小テスト30%、課外学習のe-learning 20%（3 Step CALL 10%、PowerWords10%）課外学習のe-learningに関しては第1回目の授業の際に説明します。	
受講要件（履修条件）	ディスカッションの授業なので、出席をすることがまず大前提となります。遅刻は3回で1回分の欠席と見なします。ペアワークやグループディスカッションが多くなるため、遅刻・欠席は極力しないこと。	
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考（URL）		
備考（準備学習等）		





タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月 1
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20130590005015	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2T9)		
編集担当教員	ローン 悦子		
授業担当教員名(科目責任者)	ローン 悦子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	ローン 悦子		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養C棟]C-36(call2)		
対象学生（クラス等）	(2T9)		
担当教員Eメールアドレス	etsukolawn@hotmail.com		
担当教員研究室	非常勤講師控室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	授業の前後、またはメールにて質問を受け付けます。		
授業のねらい	本授業では、実用的な英会話の表現を習得します。特にリスニングとスピーキングに力を入れながら基礎的かつ機能的な英語運用能力の向上を目指します。		
授業方法（学習指導法）	授業では、テキストをベースに基礎的なコミュニケーションに役に立つような表現を学習していきます。また、新しい語彙、表現力を増やすためにauthentic な教材、洋画を使用し（DVD視聴）、Readers' theater（朗読劇）などの活動を通して日本人学習者の苦手なイントネーション、単語のつながり方、母音の長音化などの改善を図り、ペアワーク、グループワークをより多く取り入れて授業を進めていきます。英語圏の文化、習慣の違いにも触れていきます。		
授業到達目標	授業を通して、英語コミュニケーション活動に慣れ親しみ、「使える」基礎的なコミュニケーション能力を身につけることを目標とします。また洋画を英語で(音声、字幕共)より理解できるようにすることを目標とします。		
	授業では、眠ったボキャブラリーを「使える」知識へと変えるために、受講生には、ペアワーク、グループワークを通して出来る限りスピーキングの機会を設けます。スピーキングの明瞭さを向上させるために、DVDの視聴、補助教材も適宜使用しReaders' theaterなどの活動を通して、イントネーション、単語のつながり方（リンキング）、母音の長音化などに焦点をあてて練習していきます。また、スピーキングの弱点を克服するために、自分の会話を録音して継続表現、学習した表現が適切に使われているか確認しながら練習していきます。他人にメッセージを伝える練習を何度も繰り返すことにより、日本語と英語の発想の違いなど古い習慣が新しい習慣に置き換えられる体感をしてほしいと思います。テキスト付属のオンラインワークブック、Self-study CD-ROMを使用し予習、復習をして授業に臨んで下さい。また、本授業では、e-learning教材を課外学習として取り組んでもらいます（評価20%）。		
	回	内容	
	1	第 1回 4月8日 オリエンテーション 授業の進め方Self-introduction DVD視聴(2回目以降も継続的に視聴予定)	
	2	第 2回 4月15日 My interests スキルの概要説明	

授業内容	3	第 3回	4月22日	My interests Readers' theater	の練習方法の説明
	4	第 4回	5月13日	Descriptions	
	5	第 5回	5月20日	Descriptions Readers' theater	
	6	第 6回	5月27日	Rain or shine	
	7	第 7回	6月3日	Rain or shine Readers' theater	
	8	第 8回	6月10日	Life at home	
	9	第 9回	6月17日	Life at home	
	10	第10回	6月24日	Group work for the presentation	
	11	第11回	7月1日	Presentaton	
	12	第12回	7月8日	Health	
	13	第13回	7月22日	Health	
	14	第14回	7月23日	What's on TV	
	15	第15回	7月29日	Review	
	16	第16回	8月5日	定期試験	
キーワード	フレーズリーディング、シャドーイング、リピーティング、ディクテーション				
教科書・教材・参考書	教科書としてJack C. Richards・David Bohlke 著 『Four Corners 2 Student's Book A with Online Workbook』 Cambridge University Press - ISBN: 9781107680494を使用します。 *第 1 回目の授業までに、必ず生協の販売コーナーで各自購入して下さい。				
成績評価の方法・基準等	定期試験20%、授業中の発表、小テスト、課題(オンラインワークブックを含む)、プレゼンテーション50%、積極的な授業への参加10%、課外学習のe-learning 20%(3 Step CALL10%,PowerWords10%)を総合的に判断します。				
受講要件（履修条件）	教科書、英語辞典（電子辞書も可）を毎回持参、また毎回授業に出席すること、時間厳守。 学習した内容は、きちんと復習すること！				
本科目の位置づけ	英語コミュニケーションの基礎能力を身につけるストラテジーを習得し、日本人学習者の苦手な音声言語コミュニケーション能力の向上を目指す。				
学習・教育目標	「使える」基礎的なコミュニケーション能力を身につけることを目標とします。				
備考（URL）					
備考（準備学習等）	各自テキスト付属のオンラインワークブック、Self-study CD-ROMを使用し予習、復習をして授業に臨んで下さい。また、課外学習の e-learning に関しては第 1 回目の授業の際に説明します。				





タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 2
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20130590005016	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2E7)		
編集担当教員	宇佐美 康子		
授業担当教員名(科目責任者)	宇佐美 康子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	宇佐美 康子		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養A棟]A-14		
対象学生（クラス等）	(2E7)		
担当教員Eメールアドレス	usamikan@fsinet.or.jp		
担当教員研究室	非常勤講師室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	金曜日 2限から3限		
授業のねらい	音声言語及び文字言語による基礎的英語運用能力を高めます。 より具体的には、日常の事柄や国際社会での出来事に関して、スピーキング又はライティング活動により意見を表現できるようにします。またその前提として、リスニング力とリーディング力にかかわる基礎的スキルを身につけます。		
授業方法（学習指導法）	演習形式。 基本的には2人、あるいは4人で組んで、自分の意見を言う場数を踏みます。慣れたら、人数を多くしていきます。 言った後は文で書いてみます。		
授業到達目標	論理的な会話を聞き取り、理解できること。そのうえで、自分の意見を言えること。相手を説得するために論を組み立て、自分の力の範囲内で、できるだけ効果的に言え、書けること。		
	テキストの各ユニットは、それぞれのテーマについて複数の人物が意見を述べ合っている長めの会話 Dialogue を中心に構成されています。Dialogue を聞き、発音練習してから、comprehension でいくつかの設問に答えて内容が理解できているかをチェックし、Dictation では内容の要約文の欠落箇所を聞き取って書きます。Discussion はこの内容に関わる議論を周りの人とし、What's your opinion? では、応用として新たに出されたテーマについて意見を言います。これらの活動のまとめとして、Write a paragraph では、文を書きます。さらに Start a conversation や Role-play を利用して、さらにスキルを磨きます。 意見を言うためにはまず自分の意見がなくてははいけません。自分で考えてみる習慣をつけつつ、それを説得的に表現できよう練習をしていきたいと思います。		
	回	内容	
	1	Unit 1 What kind of person do you respect?	
	2	Unit 2 Are you ready for your first job interview?	

授業内容	3	Unit 3 Do you exercise?
	4	Unit 4 Are you afraid of the future?
	5	Unit 5 What will happen to the global economy?
	6	Unit 6 Have you ever been guilty of telling a white lie?
	7	Unit 7 Can you eat sushi?
	8	Unit 8 Hobby, habit, or addiction?
	9	Unit 9 Can money buy happiness?
	10	Unit 10 Is it positive or negative peer pressure?
	11	Unit 11 Do you vote?
	12	Unit 12 Are you a difficult or an easy person to get along with?
	13	G-TELPテスト
	14	Unit 13 Can you live without your cellphone?
	15	Unit 14 What is the most effective way to study?
	16	期末試験
キーワード	まず言ってみる 恥ずかしがらない	
教科書・教材・参考書	Reflections: Talking about Things That Matter (Nan'un-do, CD付き)	
成績評価の方法・基準等	定期試験約50%、小テスト約15%、授業への参加(レポートを含む) 約15%、 課外 学習のe-learning 20% (3 Step CALL 10%、PowerWords10%) 課外学習の e-learningに関しては第1 回目の授業の際に説明します	
受講要件 (履修条件)	全回出席が原則です。教科書を購入して第一回目に臨んで下さい。第一回目から授業に入ります。	
本科目の位置づけ	英語は現在事実上、世界の第一共通言語になっています。そのため、第一線の情報を迅速に得るには、英語のスキルが必要になっています。英語の授業を、英語の実力向上に最大限役立てて下さい。	
学習・教育目標	英語の学習を、まず楽しんでもらいたいです。 できるだけ知的に興味の持てる教材を用意するように努力しますので、学生も積極的に参加して下さい。	
備考 (URL)		
備考 (準備学習等)	毎回小テストをします。これは授業の復習になり好評です。 予習して授業に臨むことが原則です。	





タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月 1
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20130590005017	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2T6)		
編集担当教員	廣江 顕		
授業担当教員名(科目責任者)	廣江 顕		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	廣江 顕		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養C棟]C-35(call1)		
対象学生（クラス等）	(2T6)		
担当教員Eメールアドレス	ahiroe@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	言語教育研究センター廣江研究室（環境科学部1階）		
担当教員TEL	095-819-2378		
担当教員オフィスアワー	メールにより随時受付		
授業のねらい	この授業を通して、英語を発信型言語のツールとして活用していく機会とする。		
授業方法（学習指導法）	授業では、前半をリスニングのテストゼミを行い、その後、解答・解説を行う。後半では、プリント教材を用いて日本語・英語双方による要約を行う。また、数分程度で英語で自己紹介ができるよう、クラスの前で発表する訓練を行う。		
授業到達目標	平易な英語を用いて自己紹介ができ、またある程度まとまった内容の英文を平易な英語で要約が素早く簡潔に行えるようになる。		
授業内容	回	内容	
	1	Introduction, Sample Listening Test	
	2	Listening 1, プリント教材(1), Self-introduction in English	
	3	Listening 2, プリント教材の日本語における要約(1), Self-introduction in English	
	4	Listening 3, プリント教材の英語における要約(2), Self-introduction in English	
	5	Listening 4, プリント教材(3), Self-introduction in English	
	6	Listening 5, プリント教材(3)の日本語における要約, Self-introduction in English	
	7	Listening 6, プリント教材の英語における要約(3), Self-introduction in English	
	8	Listening 7, プリント教材(4), Self-introduction in English	
	9	Listening 8, プリント教材(4)の日本語における要約, Self-introduction in English	
	10	Listening 9, プリント教材(4)の英語における要約, Self-introduction in English	
	11	Listening 10, プリント教材(5), Self-introduction in English	
	12	Listening 11, プリント教材(5)の日本語における要約, Self-introduction in English	

	13	Listening 12, プリント教材(5)の英語における要約, Self-introduction in English
	14	まとめ(1),Self-introduction in English
	15	まとめ(2),Self-introduction in English
	16	定期試験
キーワード	expressing yourself in English, summary writing	
教科書・教材・参考書	プリント教材, 参考書等は授業時に指示する	
成績評価の方法・基準等	リスニング(20%), self-introduction in English (10%), 課題(20%), E-learning教材(20%), 定期試験(30%)	
受講要件（履修条件）		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標	平易な英語で自分自身を表現することから出発し、論理的に英語で要約する土台を培う	
備考（URL）		
備考（準備学習等）		





タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木 2
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20130590005018	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2P1)		
編集担当教員	廣江 顕		
授業担当教員名(科目責任者)	廣江 顕		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	廣江 顕		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養C棟]C-45(call3)		
対象学生（クラス等）	(2P1)		
担当教員Eメールアドレス	ahiroe@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	言語教育研究センター廣江研究室（環境科学部1階）		
担当教員TEL	095-819-2378		
担当教員オフィスアワー	メールにより随時受付		
授業のねらい	この授業を通して、英語を発信型言語のツールとして活用していく機会とする。		
授業方法（学習指導法）	授業では、前半をリスニングのテストゼミを行い、その後、解答・解説を行う。後半では、プリント教材を用いて日本語・英語双方による要約を行う。また、数分程度で英語で自己紹介ができるよう、クラスの前で発表する訓練を行う。		
授業到達目標	平易な英語を用いて自己紹介ができ、またある程度まとまった内容の英文を平易な英語で要約が素早く簡潔に行えるようになる。		
授業内容	回	内容	
	1	Introduction, Sample Listening Test	
	2	Listening 1, プリント教材(1), Self-introduction in English	
	3	Listening 2, プリント教材の日本語における要約(1), Self-introduction in English	
	4	Listening 3, プリント教材の英語における要約(2), Self-introduction in English	
	5	Listening 4, プリント教材(3), Self-introduction in English	
	6	Listening 5, プリント教材(3)の日本語における要約, Self-introduction in English	
	7	Listening 6, プリント教材の英語における要約(3), Self-introduction in English	
	8	Listening 7, プリント教材(4), Self-introduction in English	
	9	Listening 8, プリント教材(4)の日本語における要約, Self-introduction in English	
	10	Listening 9, プリント教材(4)の英語における要約, Self-introduction in English	
	11	Listening 10, プリント教材(5), Self-introduction in English	
	12	Listening 11, プリント教材(5)の日本語における要約, Self-introduction in English	

	13	Listening 12, プリント教材(5)の英語における要約, Self-introduction in English
	14	まとめ(1),Self-introduction in English
	15	まとめ(2),Self-introduction in English
	16	定期試験
キーワード	expressing yourself in English, summary writing	
教科書・教材・参考書	プリント教材, 参考書等は授業時に指示する	
成績評価の方法・基準等	リスニング(20%), self-introduction in English (10%), 課題(20%), E-learning教材(20%), 定期試験(30%)	
受講要件（履修条件）		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標	平易な英語で自分自身を表現することから出発し、論理的に英語で要約する土台を培う	
備考（URL）		
備考（準備学習等）		





タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木 2
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20130590005019	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2L3)		
編集担当教員	小笠原 真司		
授業担当教員名(科目責任者)	小笠原 真司		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	小笠原 真司		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養A棟]A-24		
対象学生（クラス等）	(2L3)		
担当教員Eメールアドレス	ogasa-s@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	環境科学部1階		
担当教員TEL	095-819-2094		
担当教員オフィスアワー	火4 水3 木3		
授業のねらい	英語でのコミュニケーション活動がスムーズにできるように、基礎的な英語の発音やリズム練習を行います。さらに、リスニングストラテジーに基づいたトレーニングを行い、いろいろな会話場面で十分コミュニケーション活動が行えるようにします。また、日本文化に関して、英語で説明できるような簡単なプレゼンの練習も行い、自信を持って英語を発信できるようにします。		
授業方法（学習指導法）	演習形式で行います。指定されたテキストは、決められた範囲を予習しておくことが必要です。家庭でテキスト付属のCDを利用して、リスニングの問題の解答を作成して、授業に臨んでください。授業では、CDを用いて解答の確認をし、それらの英文の発話練習を行います。また、それらの英文を利用して、ダイアログを作成したり、テキストの英文を参考にして、簡単な日本文化に関するプレゼンの練習をします。また、2回程度、プレゼンテーション用のスピーチ用の英文の原稿を書いてもらい、ペアやグループでの英語によるスピーチ練習をします。		
授業到達目標	テキストの中の重要な英語の構文は、授業中指定されたものはすべて覚えて頭の中に内在化し、自然と発話できるレベルまでにします。英会話レベルを超えて、少し長いレベルの英語も発話できるようにします。また、基本的なリスニングストラテジーを身につけてもらい、簡単な英語ニュースやダイアログなら、内容の概要を聞き取れるようにします。また、簡単なプレゼンを、自信をもって英語でできるようにします。		
	毎回、授業の最初は、課題のe-learning 教材の小テストを行います。その後、CDを聞きながら、予習してきてもらったリスニング問題の解答を行います。その後、テキストを用いて、話すための大切な英語構文を整理しながらCDを用いて、英語を繰り返す練習を行います。これは、リピーティング練習といい、英語の構文を内在化する（身につける）には効果的な練習方法です。この練習を20分程度行い、その後、ダイアログを作成したり、日本文化を語るための簡単な英文を作成したりします。 さらに、応用練習として、ペアやグループになってもらい、課題として作成したプレゼンテーション用の原稿を用いてのスピーチ練習を行います。もちろん、この原稿を書くための指		

授業内容

導も行います。 なお、e-learning 教材を課題学習として、授業外に行ってもらいます。 この授業に関しては、決して受身的な態度で参加しないでください。授業の効果を上げるためにも、学生は極力欠席を避け、積極的に授業に参加してください。毎回、課題がでますので、なによりも家庭学習をきちんとすることが大切です。学生の積極的な取り組みを期待します。真剣に授業に参加し、家庭学習もきちんとすれば、必ず英語の力は向上します。がんばってください。	
回	内容
1	オリエンテーション リピーティング練習体験 機能編：質問する、依頼する、確認する等 日本文化を語る 金沢
2	リピーティング練習1 機能編：あやまる、感謝を表す、賛成する等 日本文化を語る 小笠原諸島
3	リピーティング練習2 主語をつかいこなす 日本文化を語る 長崎県
4	リピーティング練習3 疑問文パターン練習(1) 日本文化を語る 入学式
5	リピーティング練習4 疑問文パターン練習(2) 日本文化を語る 焼酎
6	リピーティング練習5 助動詞の気持ちをつかむ(1) 日本文化を語る 留学
7	リピーティング練習6 助動詞の気持ちをつかむ(2) 日本文化を語る 漫画 スピーチ練習課題A作成指導
8	リピーティング練習7 名詞節が含まれる文(1) 日本文化を語る 祇園祭り スピーチ練習課題A提出
9	リピーティング練習8 名詞節が含まれる文(2) 日本文化を語る 九州 スピーチ練習課題Aを用いたペア練習
10	リピーティング練習9 完了形の文 日本文化を語る 日本人のマナー スピーチ練習課題Aを用いたペア練習
11	リピーティング練習10 進行形、受動態を含んだ文 日本文化を語る 野球
12	リピーティング練習 比較表現 日本文化を語る ラーメン
13	リピーティング練習12 動詞のパターン練習 日本文化を語る 島津斉彬と集成館 スピーチ練習課題B作成指導
14	リピーティング練習13 使役動詞のパターン 日本文化を語る 歌舞伎 スピーチ練習課題B提出 ペア練習
15	リピーティング練習14 知覚動詞のパターンテキスト 日本文化を語る 自動車産業 スピーチ練習課題B ペア練習

	16 定期試験
キーワード	Repeating, Pair Work, Listening Strategies
教科書・教材・参考書	教科書（テキスト）： Let's Make a Skit Presentation! （英宝社） ￥1,800
成績評価の方法・基準等	成績評価は、 ○定期試験50%、プレゼンペーパー20% 授業でのアクティビティ10% e-learning 20% で行います。 e-learning の内容に関しては、1回目の授業時に説明します。
受講要件（履修条件）	全回出席が原則。教科書も必ず購入すること。
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考（URL）	
備考（準備学習等）	





タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月 1
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20130590005020	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2M2)		
編集担当教員	隈上 麻衣		
授業担当教員名(科目責任者)	隈上 麻衣		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	隈上 麻衣		
科目分類	B 科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養A棟]A-23		
対象学生（クラス等）	(2M2)		
担当教員Eメールアドレス	mkumagami@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	月曜2限（メールでも受け付ける）		
授業のねらい	本授業では、下記のテキストを使用し、リスニング・スピーキングの力を向上させる。英語の音の特徴を概観し、それを意識した上で聞き取り練習や発音練習（音読）を繰り返し行い、英語を運用するための基礎力を養う。		
授業方法（学習指導法）	毎回小テストを実施する。各Unitの聞き取りを行った後、キーワード・センテンスの確認、関連項目についてのディスカッションを行う。		
授業到達目標	様々なトピックを扱うことにより語彙力などの基礎力を向上させ、(i) 英語の会話・談話の大意が素早く掴めるようになるとともに、(ii) 与えられた課題に関して、簡潔に自分の意見が述べられるようにする。		
授業内容	回	内容	
	1	Orientation, Self-introduction	
	2	Unit 1	
	3	Unit 2	
	4	Unit 3	
	5	Unit 4	
	6	Unit 5	
	7	Unit 6	
	8	Unit 7	
	9	Presentation	
	10	Presentation	
	11	Unit 8	

	12	Unit 9
	13	Unit 10
	14	Unit 11
	15	Unit 12
	16	Final Exam
キーワード		
教科書・教材・参考書	The Global Topics of Health and Environment from VOA, 松柏社	
成績評価の方法・基準等	Attendance & Participation (10%), Presentation (20%), Quiz (20%), Final Exam (30%), e-learning (20%: 3 Step CALL and PowerWords 10% each)	
受講要件（履修条件）		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考（URL）		
備考（準備学習等）		





タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 1
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20130590005021	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2E1)		
編集担当教員	前川 智子		
授業担当教員名(科目責任者)	前川 智子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	前川 智子		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養A棟]A-41		
対象学生（クラス等）	(2E1)		
担当教員Eメールアドレス	t-mae@asca-iso.jp		
担当教員研究室	非常勤講師室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	授業の前後10分間		
授業のねらい	英語のリスニング力を向上させることがねらいである。そのために語彙を増やし、英文構成を復習する。また、音読練習により、英語らしい発音・リズム・イントネーションを身につける。		
授業方法（学習指導法）	イギリスのBBCドキュメンタリー放送を基に易しい英語で話されている映像・音声を教材とし、リスニング力の強化を図る。テキストの練習問題を通して、リスニング力向上のために不可欠な語彙力を強化させる。第三回目の授業から毎回、授業の初めに、前の授業で学んだ内容の小テスト（DVDの内容を聞いて語句を入れるなど）を行うので、教室外でDVDを何度も聞いておくことが要求される。自らが英語を正しく、英語らしく読めないと聞いても内容が分からないので、音読練習を繰り返し行い、英語らしい発音・リズム・イントネーションを身につける。		
授業到達目標	英語のリスニング力を向上させる。 また、その過程において、英語の語彙力、発音・イントネーションで英文を上達させる。		
	回	内容	
	1	Orientation 教科書販売、授業の進め方、小テストについて、リスニングを向上させるコツ <宿題：次回のChapter予習>	
	2	小テスト（前回の学習内容から） Chapter 1: Hamburger History <宿題：次回のChapter予習>	
	3	小テスト（前回の学習内容から） Chapter 2: Rings and Things	

授業内容

授業内容		<宿題：次回のChapter予習>
	4	小テスト（前回の学習内容から） Chapter 3: Bringing up Baby <宿題：次回のChapter予習>
	5	小テスト（前回の学習内容から） Chapter 4: The Bhutanese <宿題：次回のChapter予習>
	6	小テスト（前回の学習内容から） Chapter 5: Into the Wilderness <宿題：次回のChapter予習>
	7	小テスト（前回の学習内容から） Chapter 6: Jade <宿題：次回のChapter予習>
	8	小テスト（前回の学習内容から） Chapter 7: The Mongols <宿題：次回のChapter予習>
	9	小テスト（前回の学習内容から） Chapter 8: Diamonds <宿題：次回のChapter予習>
	10	小テスト（前回の学習内容から） Chapter 9: Gorilas in Our Midst <宿題：次回のChapter予習>
	11	小テスト（前回の学習内容から） Chapter 10: A Father's Labor <宿題：次回のChapter予習>
	12	小テスト（前回の学習内容から） Chapter 11: Queues <宿題：次回のChapter予習>
	13	小テスト（前回の学習内容から） Chapter 12: Ahead of Fashion <宿題：次回のChapter予習>
	14	小テスト（前回の学習内容から） Chapter 13: Learning to See <宿題：次回のChapter予習>
	15	小テスト（前回の学習内容から） 授業のまとめと復習
	16	期末テスト
キーワード	リスニング	
教科書・教材・参考書	『Welcome to BBC on DVD』（成美堂）	
成績評価の方法・基準等	E-Learning (20%) 小テスト (40%) 期末テスト (40%)	

受講要件（履修条件）	全回出席が原則。正当な理由があっても、欠席が5回となると定期試験を受ける資格を失う。第三回目以降毎週、授業の初めにリスニング小テストをするので遅刻・欠席をしないこと。リスニングテスト中の出入りは他学生の妨げになるので、その間入室を遠慮してもらうこともある。
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	リスニング力、語彙力が向上する。英語らしい発音・イントネーションが身につく。
備考（URL）	
備考（準備学習等）	毎回宿題（その週の復習と次回の予習）を出すので、それを行った上で授業に臨むこと。特に復習は小テスト（リスニングと語彙）の結果に影響するので教室外での学習を怠らないこと。教室外でDVDを聴くことができる環境を作っておくこと。





タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木 2
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20130590005022	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2F2)		
編集担当教員	村岡 三奈子		
授業担当教員名(科目責任者)	村岡 三奈子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	村岡 三奈子		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養D棟]D-27		
対象学生（クラス等）	(2F2)		
担当教員Eメールアドレス	muraoka@n-junshin.ac.jp		
担当教員研究室	非常勤講師室		
担当教員TEL	095-846-0084		
担当教員オフィスアワー	随時		
授業のねらい	映画を教材として、場面や状況に応じた生きた英語表現を身につけることを目指す。		
授業方法（学習指導法）	原則として、毎週、テキストを1章ずつ進めながら、英語の4技能をバランスよく学習する。		
授業到達目標	基本的構文および文法事項に留まらず、生きた英語表現や文化的知識を身につけることが出来る。		
授業内容	回	内容	
	1	10月3日：イントロダクション	
	2	10月10日：第1章	
	3	10月17日：第2章	
	4	10月24日：第3章	
	5	10月31日：第4章	
	6	11月7日：第5章	
	7	11月14日：第6章	
	8	11月21日：第7章	
	9	11月28日：第8章	
	10	12月5日：第9章	
	11	12月12日：第10章	
	12	12月19日：第11章	
	13	12月26日：第12章	

	14	1月9日：第13章
	15	1月16日：第14章
	16	1月30日：定期試験
キーワード		
教科書・教材・参考書	Step Up with Movie English (KINSEIDO)	
成績評価の方法・基準等	出席・授業態度：10% 小テスト：10% 課題：10% 定期試験：50% 課外学習の e-learning：20% (詳細は第 1 回目の授業で説明)	
受講要件（履修条件）		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考（URL）		
備考（準備学習等）		





タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	火 1
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20130590005023	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2K4)		
編集担当教員	山崎 有介		
授業担当教員名(科目責任者)	山崎 有介		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山崎 有介		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養A棟]A-32		
対象学生（クラス等）	(2K4)		
担当教員Eメールアドレス	pro-1223@i-next.ne.jp		
担当教員研究室	非常勤講師室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	授業終了後		
授業のねらい	異文化理解を深めることは外国語学習への第1歩であることを前提に広い視野を持って英語学習を進めていく。イギリスやアメリカの文化を・習慣と通じ、日本やアジアの文化・習慣との違いを知ることにより深い英語の表現を学習することができるのである。		
授業方法（学習指導法）	短い英文を読み、読解力を鍛えるとともに文法力の確認、語彙力作文力を通して表現力をの向上を目指す。Speakingの練習も同時に行う。		
授業到達目標	無理なく通常の英文が読め、聴覚力を養うことで、発音の向上を目指し、英語における表現力を豊かにしたい。TOEICや英検などの資格試験のスキルアップにも役立てたい。		
	毎回1つのUnitを進めていく。ReadingとExerciseとしてBuild Up Your Vocabulary、Check Your Understanding、Grammatical Pointを行う。		
	回	内容	
	1	オリエンテーション：授業の進め方・評価の仕方の説明・授業アンケート&クイズ	
	2	When Do You Eat? —アフタヌーン・ティーってお茶の時間?—	
	3	Before You Go to England —イギリスはどこにあるのか—	
	4	Future of the Shopping Mall —なんでも買えるお店はどこにある?—	
	5	Basic of Apartment Renting —世界の借家事情—	
	6	Is That Really English? —それってホントに英語なの—	

授業内容	7	Dining Out: East and West —「私がおごります」—
	8	中間としてのまとめ（テストを含む）
	9	Careers and Promotions —年功序列と実力主義、どちらがいい？—
	10	Bath or Shower? —あなたは風呂派？ それともシャワー派？—
	11	White=Right? —美白の魔力、白い肌が美しいというのは世界の共通か？—
	12	Money and Modern Weddings —経済力と結婚の厳しい現実—
	13	Subway Around the World —世界の地下鉄を乗りこなそう—
	14	Work Hours —生きるために働くのか、働くために生きるのか—
	15	Female Leaders —女性と仕事—
	16	全体のまとめ（定期試験を含む）
キーワード	Reading/Writing/Listneing/Speaking/Vocabulary/文法	
教科書・教材・参考書	Know the Differences, Broaden Your World!—Short Reading and Basic Grammar for Cultural Literacy— (Asahi Press)	
成績評価の方法・基準等	定期試験30%、中間試験30%、小試験20%、e-learning 20% (3 Step CALL10%、PowerWords10%)	
受講要件（履修条件）		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考（URL）		
備考（準備学習等）		





タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木 1
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20130590005024	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2L6)		
編集担当教員	藤内 則光		
授業担当教員名(科目責任者)	藤内 則光		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	藤内 則光		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養C棟]C-35(call1)		
対象学生（クラス等）	(2L6)		
担当教員Eメールアドレス	fujiuchi@nagasaki-gaigo.ac.jp		
担当教員研究室	非常勤講師控室		
担当教員TEL	095-840-2000 (内線335)		
担当教員オフィスアワー	外語大335研究室にて随時・要確認		
授業のねらい	この授業では、伝達手段としての英語の基本的な技能と、特に読解能力と聴取能力の相関関係を解説した後、読解と聴解の能力を総合的に向上させる訓練を行う。最終的には、「読んで分かる英語」から「聞いて分かる英語」へと、受講生の英語力を向上させる。 また、この授業ではプロの教師の心構えも身につけていただきたい。		
授業方法（学習指導法）	CALL教室の機材を適宜活用し、与えられた英語のテキストの聴解に音読を加えた訓練方式。		
授業到達目標	CNN放送を聞いて内容を説明できる程度の英語運用能力の獲得を目的とする。		
授業内容	教科書は主教材と副教材の二種類を使用する。 授業開始当初は副教材を用い、基本的な英語の聴解とディクテーション、適宜発音指導を行い、採点結果を出席した証拠として回収するとともに、提出物として平常点に加算する。 主教材は、主に現代日本の時事に関するNHK BSのニュースを題材にしたDVD教材。第1回目のオリエンテーションにて受講生のリクエストを募り、以降、そのリクエストどおりに授業を進行させる。教科書にある英作文を課題として課し、提出させる。受講生は主教材付属のDVDを見て、事前に予習をすること。 授業の進行が明確に分かっているので、欠席者は次の授業の準備をすること。DVDを見る装置が自宅にない場合でも、図書館を利用するなどの方策を自分で考えること。教科書は設問に解答するだけでなく、本文の音読を予習や復習に取り入れること。1回視聴して内容を理解出来る程度の復習を前提にします。授業も最終試験も難しいので、常に復習を怠らないように。また、最終試験の評価割合が少ないので、時間外の学習を怠らないように。 定期試験 16回目開講時		
	回	内容	
	1	10/3 オリエンテーション、座席決定、教科書販売、期末試験の仕様発表、講義の心得確認	
	2	10/10 副教材 Unit 1、主教材 教科書 Unit 1、新章へ	
	3	10/17 副教材 Unit 3、主教材 教科書継続、または新章へ	

	4	10/24 副教材 Unit 4、主教材 教科書継続、または新章へ
	5	10/31 副教材 Unit 5、主教材 教科書継続、または新章へ
	6	11/7 副教材 Unit 6、主教材 教科書継続、または新章へ
	7	11/14 副教材 Unit 7、主教材 教科書継続、または新章へ
	8	11/21 副教材 Unit 8、主教材 教科書継続、または新章へ
	9	11/28 副教材 Unit 9、主教材 教科書継続、または新章へ
	10	12/5 副教材 Unit 11、主教材 教科書継続、または新章へ
	11	12/12 副教材 Unit 12、主教材 教科書継続、または新章へ
	12	12/19 副教材 Unit 13、主教材 教科書継続、または新章へ
	13	12/26 副教材 Unit 14、主教材 教科書継続、または新章へ
	14	1/9 副教材 Unit 21、主教材 教科書継続、または新章へ
	15	1/16 副教材 Unit 24、主教材 教科書終了
	16	2/6 定期試験 90分、提出物最終締め切り
キーワード		
教科書・教材・参考書	主教材：What's on Japan 7(金星堂) 副教材：Campus Listening(成美堂)	
成績評価の方法・基準等	全て主教材より 定期試験60%(単語理解8%、本文内容ディクテーション 14%（部分点あり）、内容理解28%、課題英作文 10%（部分点あり）) 平常点20%(英作文提出と副教材解答結果提出) 課外学習のe-learning 20% (3 Step CALL 10%、PowerWords10%) 課外学習のe-learningに関しては第1回目の授業の際に説明します。	
受講要件（履修条件）	教科書を購入し、英和辞典を必ず携行して授業に臨むこと。	
本科目の位置づけ		
学習・教育目標	英語の実用的運用能力を、訓練を通じて向上させる。また、英語の自学に必要な勉強・訓練方法も伝授する。実際に英語の実力を付けることで教科書の内容を理解させるのが目的なので、授業の予復習をしない学生の単位成立を保証しない。	
備考（URL）		
備考（準備学習等）	DVDを見て、放送を一通り音読で真似てみる程度の事前訓練をしてください。	





タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木 2
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20130590005025	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2F3)		
編集担当教員	藤内 則光		
授業担当教員名(科目責任者)	藤内 則光		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	藤内 則光		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養C棟]C-35(call1)		
対象学生（クラス等）	(2F3)		
担当教員Eメールアドレス	fujiuchi@nagasaki-gaigo.ac.jp		
担当教員研究室	非常勤講師控室		
担当教員TEL	095-840-2000 (内線335)		
担当教員オフィスアワー	外語大335研究室にて随時・要確認		
授業のねらい	この授業では、伝達手段としての英語の基本的な技能と、特に読解能力と聴取能力の相関関係を解説した後、読解と聴解の能力を総合的に向上させる訓練を行う。最終的には、「読んで分かる英語」から「聞いて分かる英語」へと、受講生の英語力を向上させる。		
授業方法（学習指導法）	CALL教室の機材を適宜活用し、与えられた英語のテキストの聴解に音読を加えた訓練方式。		
授業到達目標	CNN放送を聞いて内容を説明できる程度の英語運用能力の獲得を目的とする。		
授業内容	教科書は主教材と副教材の二種類を使用する。 授業開始当初は副教材を用い、基本的な英語の聴解とディクテーション、適宜発音指導を行い、採点結果を出席した証拠として回収するとともに、提出物として平常点に加算する。 主教材は、主に現代日本の時事に関するNHK BSのニュースを題材にしたDVD教材。第1回目のオリエンテーションにて受講生のリクエストを募り、以降、そのリクエストどおりに授業を進行させる。教科書にある英作文を課題として課し、提出させる。受講生は主教材付属のDVDを見て、事前に予習をすること。 授業の進行が明確に分かっているので、欠席者は次の授業の準備をすること。DVDを見る装置が自宅にない場合でも、図書館を利用するなどの方策を自分で考えること。教科書は設問に解答するだけでなく、本文の音読を予習や復習に取り入れること。1回視聴して内容を理解出来る程度の復習を前提にします。授業も最終試験も難しいので、常に復習を怠らないように。また、最終試験の評価割合が少ないので、時間外の学習を怠らないように。 定期試験 16回目開講時		
	回	内容	
	1	10/3 オリエンテーション、座席決定、教科書販売、期末試験の仕様発表、講義の心得確認	
	2	10/10 副教材 Unit 1、主教材 教科書 Unit 1、新章へ	
	3	10/17 副教材 Unit 3、主教材 教科書継続、または新章へ	
	4	10/24 副教材 Unit 4、主教材 教科書継続、または新章へ	

	5	10/31 副教材 Unit 5、主教材 教科書継続、または新章へ
	6	11/7 副教材 Unit 6、主教材 教科書継続、または新章へ
	7	11/14 副教材 Unit 7、主教材 教科書継続、または新章へ
	8	11/21 副教材 Unit 8、主教材 教科書継続、または新章へ
	9	11/28 副教材 Unit 9、主教材 教科書継続、または新章へ
	10	12/5 副教材 Unit 11、主教材 教科書継続、または新章へ
	11	12/12 副教材 Unit 12、主教材 教科書継続、または新章へ
	12	12/19 副教材 Unit 13、主教材 教科書継続、または新章へ
	13	12/26 副教材 Unit 14、主教材 教科書継続、または新章へ
	14	1/9 副教材 Unit 21、主教材 教科書継続、または新章へ
	15	1/16 副教材 Unit 24、主教材 教科書終了
	16	2/6 定期試験 90分、提出物最終締め切り
キーワード		
教科書・教材・参考書	主教材：What's on Japan 7(金星堂) 副教材：Campus Listening(成美堂)	
成績評価の方法・基準等	全て主教材より 定期試験60%(単語理解8%、本文内容ディクテーション 14% (部分点あり)、内容理解28%、課題英作文 10% (部分点あり)) 平常点20%(英作文提出と副教材解答結果提出) 課外学習のe-learning 20% (3 Step CALL 10%、PowerWords10%) 課外学習のe-learningに関しては第1回目の授業の際に説明します。	
受講要件 (履修条件)	教科書を購入し、英和辞典を必ず携行して授業に臨むこと。	
本科目の位置づけ		
学習・教育目標	英語の実用的運用能力を、訓練を通じて向上させる。また、英語の自学に必要な勉強・訓練方法も伝授する。実際に英語の実力を付けることで教科書の内容を理解させるのが目的なので、授業の予復習をしない学生の単位成立を保証しない。	
備考 (URL)		
備考 (準備学習等)	DVDを見て、放送を一通り音読で真似てみる程度の事前訓練をしてください。	





タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木 1
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20130590005026	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2L4)		
編集担当教員	山口 敦子		
授業担当教員名(科目責任者)	山口 敦子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山口 敦子		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養A棟]A-13		
対象学生（クラス等）	(2L4)		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室	非常勤講師控室		
担当教員TEL	095-846-0084		
担当教員オフィスアワー	授業終了時		
授業のねらい	世界情勢や文化、身近な問題まで幅広い内容を伝える海外のニュース番組をDVDで視聴しながら、リスニング力を強化する。またニュース英語によく使われる構文や表現を学ぶことで、内容をすばやく把握する力を身につけ、国際的な視野の拡大に繋げる。		
授業方法（学習指導法）	イギリスの代表的なニュース番組であるBBCニュースのビデオ教材を視聴しながらリスニング練習と大まかな内容把握を行い、ニュースの要旨を作成する。付属のDVDでの予習を前提とする。		
授業到達目標	ニュース英語のリズムや速度に慣れ、リスニング力を向上させる。現代の様々な社会問題に関するキーワードを習得しながら、ニュースの内容を大まかに把握することができるようにする。		
授業内容	テキストの各ユニットの中から学生にとって興味深い内容を持つニュースを扱う。毎回テキスト付属のDVDでニュースクリップを視聴し、リスニング問題の予習をしておく。授業でニュースクリップを視聴しながらリスニング問題の解答を確認する。ニュースの本文を完成させ、おおまかな内容把握を行う。次にニュースに使われた重要な単語と5W1Hに関する問題演習を行うことで細部の理解を目指す。最後はニュースの要約文を完成させ、内容理解と新しい表現の確認をする。		
	回	内容	
	1	イントロダクション	
	2	Pandas from China Visit Edinburgh Zoo: リスニング演習と内容把握	
	3	Pandas from China Visit Edinburgh Zoo: 総合問題演習と要約文の完成	
	4	Drive for Healthier Lunchboxes: リスニング演習と内容把握	
	5	Drive for Healthier Lunchboxes: 総合問題演習と要約文の完成	
	6	The Best Place in Britain to Grow Up: リスニング演習と内容把握	

	7	The Best Place in Britain to Grow Up: 総合問題演習と要約文の完成
	8	Animal Rights Threaten Medical Research: リスニング演習と内容把握
	9	Animal Rights Threaten Medical Research: 総合問題演習と要約文の完成
	10	Addiction to Smartphones: リスニング演習と内容把握
	11	Addiction to Smartphones: 総合問題演習と要約文の完成
	12	The Future of Television: リスニング演習と内容把握
	13	The Future of Television: 総合問題演習と要約文の完成
	14	Turbines for Tidal Power: リスニング演習と内容把握、
	15	Turbines for Tidal Power: 総合問題演習と要約文の完成
	16	定期試験
キーワード	ニュース英語、リスニング	
教科書・教材・参考書	Understanding the News in English 10 (『DVDでBBCニュースを見て、聞いて、考える』) 金星堂	
成績評価の方法・基準等	授業への積極的な取り組み状況(発表) 10% 定期試験 70%、 課外学習のe-learning 20% (3 Step CALL10%、PowerWords10%) 課外学習のe-learningに関しては第1回目の授業の際に説明します。	
受講要件(履修条件)	毎回予習して授業に臨むこと	
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考(URL)		
備考(準備学習等)		





タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木 1
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20130590005027	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2L5)		
編集担当教員	上村 俊彦		
授業担当教員名(科目責任者)	上村 俊彦		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	上村 俊彦		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養D棟]D-37		
対象学生（クラス等）	(2L5)		
担当教員Eメールアドレス	yandi@sun.ac.jp		
担当教員研究室	非常勤講師控え室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	本クラスの開講時間帯前後		
授業のねらい	英文テキスト（CEF B2-B1レベル）の教材を用いて、受講者の英語運用能力の向上を図る。		
授業方法（学習指導法）	毎回、前週学習内容に関するDictation Quizをおこなう。英文テキストを用いた音読演習、大意把握のための演習をおこなう。		
授業到達目標	中学・高校で学んだ英語の基礎的な知識をもとに、社会人として求められる英語コミュニケーション能力まで向上させる。		
授業内容	回	内容	
	1	Introduction（クラス内学習と課外学習について、英文テキストの多読と音読について）	
	2	Unit 1 A world of difference	
	3	Unit 2 The work week	
	4	Unit 3 Good times, bad times	
	5	Unit 4 Getting it right	
	6	Unit 5 Our changing world	
	7	Unit 6 What matters to me	
	8	Dictation Quiz (Unit 1 - 5) Mid-term Test	
	9	Unit 7 Passions and fashions	
	10	Unit 8 No fear!	
	11	Unit 9 It depends how you lookat it	
	12	Unit 10 All things high tech	

	13	Unit 11 Seeing is believing
	14	Unit 12 Telling it like it is
	15	Dictation Quiz (Unit 6 - 10) Grammar & Listening Summary
	16	Final Test
キーワード	英文テキストの多読、shadowing	
教科書・教材・参考書	Soars, L. & J.(2009) American Headway 3, Oxford University Press	
成績評価の方法・基準等	クラス学習 70%（中間・期末テストのスコアに、クラス参加状況等を考慮） レポート課題 10% 課外学習のe-learning 20%（3 Step CALL 10%、PowerWords10%）	
受講要件（履修条件）	クラス学習以外に、長崎大学e-learningプログラム、本クラス使用テキストの音声教材を用いた課外学習をおこなうこと。	
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考（URL）	http://www.oup.com/elt/americanheadway2e	
備考（準備学習等）	音声教材配布用に、USB(4GB 氏名等記入)を準備すること。	





タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木 2
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20130590005028	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2P2)		
編集担当教員	上村 俊彦		
授業担当教員名(科目責任者)	上村 俊彦		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	上村 俊彦		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養D棟]D-37		
対象学生（クラス等）	(2P2)		
担当教員Eメールアドレス	yandi@sun.ac.jp		
担当教員研究室	非常勤講師控え室		
担当教員TEL	095-813-5500		
担当教員オフィスアワー	授業前後に授業を実施している教室で受付けます。		
授業のねらい	中学・高校で修得した英語の語彙や文法知識をもとに、多用ね英文テキストやその音声、映像教材を用いて、大学生として求められる英語力（CEF B1レベル以上）の向上をはかる。		
授業方法（学習指導法）	毎回、前週学習した英文テキストの音声教材を用いたDictation Quizをおこなう。英文テキストの多読、音読を中心とした授業内容とする。		
授業到達目標	大学生として求められる英語の運用能力（CEF B1レベルの Reading/ Listening/ Speaking/ Writing skills)の養成をめざす。		
授業内容	回	内容	
	1	Introduction	
	2	Unit 1 Staying healthy in the modern world	
	3	Unit 1 Dictation Quiz Unit 2 Energy and our planet	
	4	Unit 2 Dictation Quiz Unit 3 Culture and tradition	
	5	Unit 3 Dictation Quiz Unit 4 A thirsty world	
	6	Unit 4 Dictation Quiz Unit 5 Inside the brain	
	7	Dictation Quiz (Unit 1 - 5) Mid-term Test	
	8	Unit 6 What we eat	
	9	Unit 6 Dictation Quiz	

		Unit 7 Our active earth
	10	Unit 7 Dictation Quiz Unit 8 Acient peoples and places
	11	Unit 8 Dictation Quiz Unit 9 Species survival
	12	Unit 9 Dictation Quiz Unit 10 Entrepreneurs and new businesses
	13	Unit 10 Dictation Quiz Pathways 2 videos Unit 1 - 3
	14	Pathways 2 videos Unit 4 - 6
	15	Pathways 2 videos Unit 7 - 10
	16	Final Test
キーワード	英文テキストの多読、Shadowing	
教科書・教材・参考書	Blass, L. & Vargo, M. (2013) Pathways 2 Heinle Cengage Learning	
成績評価の方法・基準等	クラス学習 70%（中間・期末テストのスコアに、クラス参加状況を考慮） レポート課題 10% 課外学習のe-learning 20%（3 Step CALL 10%、PowerWords10%）	
受講要件（履修条件）	音声教材（配布予定）のshadowing、大学指定のe-learning教材を用いた課外学習をおこなうこと。	
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考（URL）	http://myelt.heinle.com	
備考（準備学習等）	開講時に、USB(4GB 氏名等記入) を持参すること	





タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 1
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20130590005029	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2E3)		
編集担当教員	山田 健太郎		
授業担当教員名(科目責任者)	山田 健太郎		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山田 健太郎		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養A棟]A-13		
対象学生（クラス等）	(2E3)		
担当教員Eメールアドレス	k-yamada@sun.ac.jp		
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	授業前後		
授業のねらい	視聴覚教材とテキストによるインプットをベースにして、自分の意見を表現する英語力を身につける。		
授業方法（学習指導法）	テキスト付属のDVDに収録されたビデオスクリプトを繰り返し見ることで、聴解力をまず鍛え、その上で自習用の教材で表現を補強し、自分が使える英語表現を増やす。課外学習（3 Step CALLとPowerwords）も組み入れてリスニング力・語彙力も強化する。		
授業到達目標	TOEIC500点以上の英語力。自分の意見を簡単な英語で表現できる英語力。		
授業内容	授業内容（概要） 英語に慣れるために、毎回の授業で英英辞典を使ったクイズ、ビデオ・クリップについての英問英答などを行う。適宜グループ活動を組み入れることで、必ず英語を話す時間が毎回の授業であるようにする。自習用教材として購入する教材と合わせて自分の意見を表現する英語力を身につけ、最終的には簡単な英語によるプレゼンを行う。		
	回	内容	
	1	オリエンテーション（英英辞典の利用や、リスニング力向上のためのコツなど、英語学習全般について）	
	2	Chapter 1 Language: a road to communication	
	3	Chapter 2 Big Decisions: the less common path	
	4	Chapter 3 Friendship: the simple joys	
	5	Chapter 4 Emotional Health: taking care of ourselves	
	6	Chapter 5 The World: travel and tradition	
	7	Chapter 6 Celebration: sense of community	
	8	Chapter 7 Giving Birth: the old and the new	

	9	Chapter 8 Music: so basic, so mysterious
	10	Chapter 9 Gender and Language: hidden sexism
	11	Chapter 10 Newspapers: different roles
	12	Chapter 11 Art: all about life
	13	G-TELPテスト
	14	プレゼンテーション その1
	15	プレゼンテーション その2
	16	定期試験
キーワード	ことばの認識を柔らかく、繰り返し、多読・多聴、音読	
教科書・教材・参考書	高山一郎 『大学生のためのビデオクリップ英語総合学習』 松柏社 浦島久 『1分間で自分のことを話してみる』 中経出版	
成績評価の方法・基準等	定期試験40%、積極的な授業への参加度15%、プレゼンテーション25%（中間提出等を含む）、課外学習のe-learning 20%、（3 Step CALL 10%、Powerwords 10%）	
受講要件（履修条件）		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考（URL）		
備考（準備学習等）		





タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	火 1
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20130590005030	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2K1)		
編集担当教員	川島 浩勝		
授業担当教員名(科目責任者)	川島 浩勝		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	川島 浩勝		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養C棟]C-45(call3)		
対象学生（クラス等）	(2K1)		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室	長崎外国語大学 3階334研究室		
担当教員TEL	095-840-2000（内線334）		
担当教員オフィスアワー	授業終了後、質問を受けつける。また、話し合いにより、後日、時間を設定する場合がある。		
授業のねらい	英語によるコミュニケーションを円滑に行うのに必要とされる口語英語の理解能力の基礎を作る。		
授業方法（学習指導法）	様々なタスクを用い、リスニングにフォーカスをあてた授業を行う。受講者が自己のリスニング能力を客観的に把握・理解できる場面が用意され、同時に、リスニングの学習法を学べるように授業が組み立てられている。		
授業到達目標	本授業の到達目標は、1) 口語英語のスピード・イントネーション・リズムに対応できる、2) リスニングに対応できる語彙数を増やす、3) 英語のミニマルペアーの聞き分けができる、4) 英語のミニマルペアーを正しく発音できる、5) 英語の連続音を正しく理解し、聞き取ることができる、である。		
授業内容	回	内容	
	1	授業方針の説明・英語力診断テスト	
	2	アメリカのドラマを題材にしたリスニングと口語英語の理解・整理1	
	3	アメリカのドラマを題材にしたリスニングと口語英語の理解・整理2	
	4	アメリカのドラマを題材にしたリスニングと口語英語の理解・整理3	
	5	アメリカのドラマを題材にしたリスニングとリスニングに対応した語彙力のアップ1	
	6	アメリカのドラマを題材にしたリスニングとリスニングに対応した語彙力のアップ2	
	7	アメリカのドラマを題材にしたリスニングとリスニングに対応した語彙力のアップ3	
	8	これまでの授業のまとめ	
	9	アメリカのドラマを題材にしたリスニングと母音・子音のミニマルペアーの整理・理解1	

	10	アメリカのドラマを題材にしたリスニングと母音・子音のミニマルペアーの整理・理解2
	11	アメリカのドラマを題材にしたリスニングと母音・子音のミニマルペアーの整理・理解3
	12	アメリカのドラマを題材にしたリスニングと連続音の整理・理解1
	13	アメリカのドラマを題材にしたリスニングと連続音の整理・理解2
	14	アメリカのドラマを題材にしたリスニングと連続音の整理・理解3
	15	アメリカのドラマを題材にしたリスニングと連続音の整理・理解4
	16	学期末試験
キーワード	口語英語・リスニング・語彙力・ミニマルペアー・連続音	
教科書・教材・参考書	基本的にはプリント教材を配布するが、第1回目の授業で実施する英語力診断テストの結果によっては、副教材を購入する場合がある。	
成績評価の方法・基準等	"レポート20%・学期末試験80%とする。なお、欠席1回でマイナス7点（正当な理由がある場合は考慮する）となる等の「授業ルール」があるので注意すること。詳細は、第1回目の授業で配布する資料を参照すること。 "	
受講要件（履修条件）		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考（URL）		
備考（準備学習等）		





タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	月 2
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20130590005031	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2T4)		
編集担当教員	香川 実成		
授業担当教員名(科目責任者)	香川 実成		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	香川 実成		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養A棟]A-13		
対象学生（クラス等）	(2T4)		
担当教員Eメールアドレス	jissei@kwassui.ac.jp		
担当教員研究室	非常勤講師控室		
担当教員TEL	09043429702		
担当教員オフィスアワー	月曜日12:00～12:30 非常勤講師控室		
授業のねらい	海外旅行の際に遭遇する様々なシチュエーションを想定し、各々の場面で交わされる会話をペアワークを中心として練習します。ただし、海外旅行のシミュレーションが目的ではなく、一般的な会話でも用いられる基本的な表現を身につけることをねらいとします。		
授業方法（学習指導法）	1 回目の授業で配布する授業計画表に基づく予習を前提とし、ペアワーク、グループワークを含む演習形式で授業を進めます。		
授業到達目標	①基本語彙については「音」、「意味・語法」、「スペリング」の3つを統合して使えるようになること、②リスニングについては、英語のリズム、結合・脱落といった音声現象を確認しつつ、定型表現に聞き慣れること、③最終的にはスピーキングにおいて②の内容を実践することを目指とします。		
授業内容	教科書のユニットで提示されるシチュエーションごとに、リスニングとスピーキングのアクティビティを時にはペアワークやグループワークを通しておこないます。毎回、次週内容の予習と前週内容の復習を兼ねた小テストを実施する予定です。		
	回	内容	
	1	授業概要と授業計画の説明	
	2	Unit 1: Where Are You Heading?	
	3	Unit 2: May I See Your Passport?	
	4	Unit 3: Where To?	
	5	Unit 4: I Asked for a Double	
	6	Unit 5: What Would You Suggest?	
	7	Unit Review1: Units 1-5	
	8	Unit 6: Here Are Your Keys	

	9	Unit 7: Turn Left at the Light
	10	Unit 8: How Much Is This?
	11	Unit 9: Are You Free Tomorrow?
	12	Unit 10: I'll Have the Steak
	13	Unit Review 2: Units 6-10
	14	Extra Activity: Listening Practice
	15	ボキャブラリー、定型表現テスト Units 1-10
	16	定期試験
キーワード		
教科書・教材・参考書	Michael P. Critchley, "Encounters Abroad" (2007, Nan'un-Do) 日本語版	
成績評価の方法・基準等	定期試験40%、授業中の活動（小テスト含む）30%、ボキャブラリー・定型表現テスト10%、課外学習のe-learning20%（3 Step CALL 10%、PowerWords 10%）課外学習のe-learningに関しては第1回目の授業で説明します。	
受講要件（履修条件）		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考（URL）		
備考（準備学習等）		





タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	火 1
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20130590005032	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2K2)		
編集担当教員	大坪 有実		
授業担当教員名(科目責任者)	大坪 有実		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	大坪 有実		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養A棟]A-31		
対象学生（クラス等）	(2K2)		
担当教員Eメールアドレス	r_otsubo@hotmail.co.jp		
担当教員研究室	非常勤講師控室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	水曜12：00～12：45		
授業のねらい	外国の方が不思議に思う日本の行事、教育、スポーツ、食生活等を扱った内容を読み、日本文化を改めて理解し、説明できるようになることをねらいとする。		
授業方法（学習指導法）	1回の授業で1chapterを読む。 前半で、各chapterでカギとなる単語の確認、リスニング。 後半で、日本文化についての英文を精読する。		
授業到達目標	日本文化について再認識し、各トピックについて説明でき、自分の考えを述べられるようになる。		
授業内容	回	内容	
	1	Introduction 授業の進め方・諸注意 e-learningについて	
	2	TOKYO SKY TREE	
	3	TYING THE KNOT	
	4	UNDOKAI	
	5	SCHOOL LUNCH	
	6	NATIONAL HOLIDAYS	
	7	PREPARING FOR DISASTER	
	8	HAKONE EKIDEN	
	9	WAGYU	
	10	INFLUENZA	
	11	ANIME	

	12	DIET CRAZE
	13	HOT SPRINGS IN JAPAN
	14	RAMEN
	15	DIALECTS IN JAPAN
	16	定期試験
キーワード	日本文化再確認 単語力増強	
教科書・教材・参考書	Amazing Japan 朝日出版社 ￥1,600＋税	
成績評価の方法・基準等	授業80%、課外学習のe-learning 20%（3 Step CALL 10%、PowerWords10%） 課外学習のe-learningに関しては第1回目の授業の際に説明します。	
受講要件（履修条件）	授業で発表してもらいますので、しっかりと予習をして授業に臨んでください。また、辞書を持参してください。	
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考（URL）		
備考（準備学習等）		





タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	月 2
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20130590005033	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2T5)		
編集担当教員	濱崎 大		
授業担当教員名(科目責任者)	濱崎 大		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	濱崎 大		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養D棟]D-37		
対象学生（クラス等）	(2T5)		
担当教員Eメールアドレス	mohican007@hotmail.com 欠席報告はメールではなく、後日届けを提出してください。		
担当教員研究室	非常勤講師室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	非常勤講師室在可		
授業のねらい	英語でコミュニケーションを成立させるための様々なスキルを考え、これを実践します。今それぞれが持てる英語力で、最大限のコミュニケーション能力を習得出来るようにします。頭で英文を思い描くために、核となるイメージを養っていきます。また、Group Workを通して、コミュニケーションも豊かにとれるよう積極性を持てるようにします。		
授業方法（学習指導法）	理解ある同じ受講生とのコミュニケーションは、プレッシャーを軽減する利点があります。受講生同士ペアやグループを組み、その落ち着いた状況で教科書の会話例をもとにテーマに沿って会話を発展させていきます。		
授業到達目標	簡単な日常英会話を躊躇なく運用出来るようにします。		
	Text内の、各UnitにはTopicが設けられて基本的なConversationが成されています。そのTopicとConversationを基礎に各自、各グループで考えられるSituationを想定して、Conversationを展開して行きます。日本人に独特な、発音を出来るだけNativeに近いものに修正し、これまで学んできた英語をPracticalなものになるような授業にいたします。 下記には理想的な進行を計画として立てておりますが、クラスの能力によっては進行を遅くする場合も想定されます。		
	回	内容	
	1	9月30日 第1回 Introduction	
	2	10月7日 第2回 Unit 1 言語機能別英会話 (1) Group Making	
	3	10月21日 第3回 Unit 2,3 言語機能別英会話(2),主語として便利なwe,you,they Mid-Term Examinationへ向けてTopicを決定	
	4	10月28日 第4回 Unit4,5 疑問文のパターン(1),(2)	
	5	11月11日 第5回 Unit 6,7 助動詞を使った文(1),(2)	

授業内容	6	11月18日 第6回 Preparation for the Mid-Term Examination
	7	11月25日 第7回 Mid-Term Examination; Skit Presentation (Group work)
	8	12月2日 第8回 Mid-Term Examination; Skit Presentation (Group work)
	9	12月9日 第9回 Unit 8 名詞節を使った文(1) Group Making
	10	12月16日 第10回 Unit 9 名詞節を使った文(2) Final Examinationに向けてTopicを決定
	11	1月6日 第11回 Unit 10,11,12 完了形の文、進行形、受動態の文、比較や程度を表す文
	12	1月20日 第12回 Unit 10,11,12 完了形の文、進行形、受動態の文、比較や程度を表す文
	13	1月21日 第13回 Unit 13,14,15 意識して動詞のパターンを話そう！ (日程の変更可能性有)
	14	1月27日 第14回 Unit 13,14,15 意識して動詞のパターンを話そう！
	15	2月3日 第15回 Final Examination, Group Presentation
	16	2月10日 第16回 Final Examination, Group Presentation
キーワード	脱受験英語 イメージからの英語表現へ	
教科書・教材・参考書	Let's Make a Skit Presentation (英宝社) 各自持っている参考書、辞書(英和、和英) この授業では、辞書はかなり重要です。	
成績評価の方法・基準等	Class Attendance and Participation: 15% 課外学習のe-learning 20% (3 Step CALL 10%、PowerWords10%) 課外学習のe-learningに関しては第1回目の授業の際に説明します。 Mid-Term Examination 25% Final Examination 40%	
受講要件(履修条件)	全講義出席が原則。ただし、正当な理由で欠席する場合は個人指導を行う。(課外クラブ活動に関しては正当な理由とは認められません。) 講義、演習の妨害行為はモラルとして自重してください。目に余る場合は、退室及び辞退を申し入れます。 欠席回数1/3以上は期末試験の受験資格がなくなります。	
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考(URL)		
備考(準備学習等)	中間、期末テストはGroup Workになり、Group内でのコミュニケーションも非常に重要になります。無断欠席、遅刻などは他の受講者にも非常に迷惑をかけることになるので、必ず責任ある態度で講義に望んでください。特に再履修の学生は、この点をよく考えてから決断してください。	





タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	月 2
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20130590005034	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2T2)		
編集担当教員	藤本 ゆかり		
授業担当教員名(科目責任者)	藤本 ゆかり		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	藤本 ゆかり		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養A棟]A-32		
対象学生（クラス等）	(2T2)		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室	非常勤講師控室		
担当教員TEL	095-819-2078(全学教育事務室)		
担当教員オフィスアワー	月曜日 2時30分より		
授業のねらい	特色ある内容の教科書を通して、英語の基本的な能力をさらに伸ばし、英語での表現力を高める。リピーティングという方法により、英語の理解度を高めると同時に、話す為・書く為の英文を作り上げる能力と技能を伸ばす。また、この方法を繰り返して練習することで、聴く力を養う。総合的な英語の技能を定着させ、さらに向上させる。また、英文法の復習を行い、英語の基礎及び応用力を身に付ける。		
授業方法（学習指導法）	CDを用いながら、リピーティングを通して、ダイアログを声に出して読む訓練を行い、覚え、話す能力へと発展させていく。発音の指導を行うので、積極的に活動に参加する。テキストに解答を書き込んで、理解を確かなものにする。文法事項を説明する。英語習得の方法を詳しく指導する。		
授業到達目標	自分が言いたいことを英語で表現するための基本的な能力を養うことができる。英文を英語で理解し（読む・聴く）、英語で考えて英語を使う（話す・書く）能力の基本を養成することができる。発音の改善ができる。応用的な文法の運用ができるようになる。各自で目的を再認識し、英語の学習に対する意欲を持てるようになる。		
	教科書は、リピーティングの方法を用いた、特色あるものである。 リピーティングを中心にを行うことで、スピーキングとリスニングの能力を養う。 予習の準備段階を踏んだうえで、Lecture（あらかじめ読んでおくこと。）で英文法を復習し、CDを聴いてフレーズごとにリピーティングをし、文法に留意しながらダイアログを覚える。次に再びCDを聴いて、会話の表現をつくりあげるべく、リスニングをする。さらに、自分で英作文をしてダイアログを作成し、最後にライティングとして、日本に関する英文を書く活動をする。（教科書の問題部分に空白の箇所が無いように書き込んでいく。） また、英語の習得の方法について、詳細な指導を行う。 毎回の授業には、必ず予習をして臨みましょう。英単語の意味を調べ、英作文を自分で考えておきます。また、聴く・話すという能力は、毎日欠かさず練習しなくては向上しないので、テキスト付録のCDを用いて、自宅で予習と復習を必ず行ってください。自学が非常に重要な意味を持ちます。継続が大切であり、各自目標を定めて努力することを期待します。		

授業内容	回	内容	
	1	9月30日	導入・授業内容の説明
	2	10月 7日	Unit 1
	3	10月21日	Unit 2・3
	4	10月28日	Unit 4
	5	11月11日	Unit 5
	6	11月18日	Unit 6
	7	11月25日	Unit 7
	8	12月 2日	Unit 8
	9	12月 9日	Unit 9
	10	12月16日	Unit 10
	11	1月 6日	Unit 11
	12	1月20日	Unit 12 ※ 翌日21日は、火曜日ですが月曜日の授業が行われます。
	13	1月21日	Unit 13 ※ 火曜日ですが、前日に続いて月曜日の授業を行います。
	14	1月27日	Unit 14
	15	2月 3日	Unit 15
	16	2月10日	定期試験
キーワード	リピーティング／スピーキング／リスニング／ダイアログ／英文法／英作文		
教科書・教材・参考書	Let's Make a Skit Presentation! 『ダイアログ中心のリスニング・スピーキング』（小笠原真司 他：英宝社） 英和辞典（電子辞書）を必携すること。		
成績評価の方法・基準等	定期試験の成績を80%、課外学習のe-earning20%（3 Step CALL 10%、Power Words10%）を基準とします。 定期試験を筆記で行います。課外学習のe-learningに関しては第1回目の授業の際に説明します。 また、受講中の活動や態度を非常に重視しますので、注意しましょう。		
受講要件（履修条件）	授業には、全回出席することを期待します。必ず予習をして臨みましょう。		
本科目の位置づけ	スピーキングとリスニング・スキルの定着と向上を図り、英語で表現する能力を養成する。		
学習・教育目標	スピーキングとリスニングを中心に、総合的な英語の能力を定着させる。		
備考（URL）			
備考（準備学習等）	授業には必ず予習をして臨んでください。英単語の意味をあらかじめ調べておき、文章の大意を掴んでおきます。		





タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 1
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20130590005035	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2E4)		
編集担当教員	藤本 ゆかり		
授業担当教員名(科目責任者)	藤本 ゆかり		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	藤本 ゆかり		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養A棟]A-32		
対象学生（クラス等）	(2E4)		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室	非常勤講師控室		
担当教員TEL	095-819-2078 (全学教育事務室)		
担当教員オフィスアワー	金曜日 12時より		
授業のねらい	基本的で実用的な英会話の表現を習得し、表現の基礎の定着を図る。話すことと聴くことの技能を身に付ける。暗記をするのみではなく、構文や文法に留意して、基本的な理解力を確かなものにする。語彙を増やし、文法を理解し、表現の感覚を磨く。対話力を向上させ、自分の言いたいことを表現できる豊かな表現力へと応用できる能力を養う。自分の言いたいことを表現できるコミュニケーションに対する意欲を持ち、自主的に話せるようになることを目的とする。英語の歌を通して、英米の文化を学ぶ。		
授業方法（学習指導法）	英語のフレーズの詳細な解説を行い、文法と構文、及び表現の指導をする。このことによって、英文を容易に覚えられるようになる。発音の練習をし、表現を声に出して発音する。声に出すことで覚えた英語のフレーズを使用してみる。リスニングの指導を行う。CDを活用し、何度も聴き、リピーティングを行うことで、スキルの定着を図る。		
授業到達目標	基本的・実用的な英文や英会話の表現を覚え、話すことができる。語彙力を増強することができる。英語の構文・文法・表現について理解を深めることができる。美しい発音ができ、リスニングの能力を養う。表現を声に出して述べるができる。基礎を固めた上で、自分が言いたいことを表現できるようになる。語彙を増やし、文法を身に付け、表現の応用ができるようになる。英会話とコミュニケーションに対する関心・興味を持ち、各自が目標を定めて積極的に学習の場を求めていく態度を養う。英語の歌や日常会話を通して、歌の背景や、英米の文化や歴史に対する理解を深めることができる。また、各自の現在の能力をさらに向上させるようにする。		
	英米の歌にみられる英語表現を中心として、重要な英文について、CDを聴きながら、主要な表現・構文・文法の指導を行う。構文や文法を理解することが、会話での表現の習得においても、容易にして有効であるというアプローチで進めていく。英単語の発音の仕方を指導し、練習を行う。文全体の発音についても指導と練習を繰り返し行い、定着を図る。さらに、ダイアログの表現を言えるように練習をし、覚え、ひいては話す能力を養う基礎を固めていく。また、話す能力と聴く能力は表裏一体であるという認識に基づいて、リスニングの方法を説明し、実践してみる。英米の歌とその背景について解説する。歌を通して、英会話とコミュニケーションに対する意欲をさらに持てるように指導していく。		

授業内容	回	内容		
	1	10月 4日	導入・授業内容の説明	
	2	10月11日	UNIT 4	
	3	10月18日	UNIT 5	
	4	10月25日	UNIT 6	
	5	11月 1日	UNIT 8	
	6	11月 8日	UNIT 10	
	7	11月15日	UNIT 11	
	8	11月29日	UNIT 12	
	9	12月 6日	UNIT 13	
	10	12月13日	UNIT 14	
	11	12月20日	UNIT 22・23 Christmas Songs	
	12	12月27日	UNIT 15・16	
	13	1月10日	UNIT 17・18（・19）Foster's Songs	
	14	1月23日	UNIT 19・25	
	15	1月24日	UNIT 25・26 Twin Songs	
	16	2月 7日	定期試験	
キーワード	英米の歌 / 文法と発音の強化 / 英語表現の容易な定着 / コミュニケーションのための文化の理解			
教科書・教材・参考書	『英米人・日本人のこころの歌』（CD付き）（小笠原真司 / ウィリアム・コリンズ：英光社） 英和辞典（電子辞書）を必携すること。			
成績評価の方法・基準等	定期試験80％、課外学習の3-learning20％（3 Step CALL 10％、Power Words 10％）を基準とします。 定期試験を筆記で行います。 課外学習のe-learningに関しては、第1回目の授業の際に説明します。 また、受講中の活動や態度を非常に重視します。			
受講要件（履修条件）	授業には全回出席しましょう。発音など声を出しての活動は、積極的に参加することを期待します。必ず予習をして臨んで下さい。			
本科目の位置づけ	有用な英語の表現や日常会話を学び、役立てる。英語で表現する能力を養成する。			
学習・教育目標	英米の歌と対話形式により、実践的かつ有用な英語表現を身に付ける。			
備考（URL）				
備考（準備学習等）	必ず予習をして授業に出席してください。予め英単語の意味を調べておき、問題を解いておきましょう。			





タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	月 2
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20130590005036	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2T1)		
編集担当教員	西原 真弓		
授業担当教員名(科目責任者)	西原 真弓		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	西原 真弓		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養B棟]B-44		
対象学生（クラス等）	(2T1)		
担当教員Eメールアドレス	nishihara@kwassui.ac.jp		
担当教員研究室	非常勤講師室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	メールで連絡をください		
授業のねらい	学生たちの身近にある内容の読み物をベースに、英語で読み、聞き、書き、話す力を伸ばすことをねらいとする。リスニングでは音変化を意識し、自然な英語を聞き取れるようになる。また、表現力を広げ、情報発信能力を向上させる。		
授業方法（学習指導法）	テキストをベースに、英語の4技能をのばす練習を行う。また、速読用のプリントを使い、情報を読み取り、それに関する自分の意見を言えるようにしていく。		
授業到達目標	必要な情報の読解、聴解ができるようになる。表現力を広げ、英語での自己表現能力を向上させる。		
授業内容	回	内容	
	1	オリエンテーション、音声のポイント	
	2	On-Campus Facilities	
	3	Classroom Expectations	
	4	Roommates Wanted	
	5	Tutoring	
	6	A Blind Date Disaster	
	7	Marriage Announcement	
	8	Chemistry	
	9	Pre-Wedding Parties	
	10	Driving in the US	
	11	Driving in the US	

	12	Pastime
	13	Relaxing time
	14	Words of Encouragement
	15	Words of Encouragement
	16	試験
キーワード		
教科書・教材・参考書	西原俊明、西原真弓、Amy Mukamuri 『Cultural Encounters』 センゲージラーニング	
成績評価の方法・基準等	定期試験50%、毎回の小テスト&課題30%、課外学習のe-learning 20%（3 Step CALL 10%、PowerWords10%）課外学習のe-learningに関しては第 1 回目の授業の際に説明します。	
受講要件（履修条件）		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考（URL）		
備考（準備学習等）		





タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	月 2
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20130590005037	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2T3)		
編集担当教員	ローン 悦子		
授業担当教員名(科目責任者)	ローン 悦子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	ローン 悦子		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養C棟]C-36(call2)		
対象学生（クラス等）	(2T3)		
担当教員Eメールアドレス	etsukolawn@hotmail.com		
担当教員研究室	非常勤講師控室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	授業の前後、またはメールにて質問を受け付けます。		
授業のねらい	本授業では、実用的な英会話の表現を習得します。特にリスニングとスピーキングに力を入れながら基礎的かつ機能的な英語運用能力の向上を目指します。		
授業方法（学習指導法）	授業では、テキストをベースに基礎的なコミュニケーションに役に立つような表現を学習していきます。また、新しい語彙、表現力を増やすためにauthentic な教材、洋画を使用し（DVD視聴）、Readers' theater（朗読劇）などの活動を通して日本人学習者の苦手なイントネーション、単語のつながり方、母音の長音化などの改善を図り、ペアワーク、グループワークをより多く取り入れて授業を進めていきます。英語圏の文化、習慣の違いにも触れていきます。		
授業到達目標	授業を通して、英語コミュニケーション活動に慣れ親しみ、「使える」基礎的なコミュニケーション能力を身につけることを目標とします。また洋画を英語で(音声、字幕共)より理解できるようにすることを目標とします。		
	授業では、眠ったボキャブラリーを「使える」知識へと変えるために、受講生には、ペアワーク、グループワークを通して出来る限りスピーキングの機会を設けます。スピーキングの明瞭さを向上させるために、DVDの視聴、補助教材も適宜使用しReaders' theaterなどの活動を通して、イントネーション、単語のつながり方（リンキング）、母音の長音化などに焦点をあてて練習していきます。また、スピーキングの弱点を克服するために、自分の会話を録音して継続表現、学習した表現が適切に使われているか確認しながら練習していきます。他人にメッセージを伝える練習を何度も繰り返すことにより、日本語と英語の発想の違いなど古い習慣が新しい習慣に置き換えられる体感をしてほしいと思います。テキスト付属のオンラインワークブック、Self-study CD-ROMを使用し予習、復習をして授業に臨んで下さい。また、本授業では、e-learning教材を課外学習として取り組んでもらいます（評価20%）。		
	回	内容	
	1	第 1回 9月30日 オリエンテーション 授業の進め方Self-introduction DVD視聴(2回目以降も継続的に視聴予定)	
	2	第 2回 10月7日 Shopping スキルの概要説明	

授業内容	3	第 3回	10月21日 Shopping, Readers' theater の練習方法の説明
	4	第 4回	10月28日 Fun in the city
	5	第 5回	11月11日 Fun in the city, Readers' theater
	6	第 6回	11月18日 People
	7	第 7回	11月25日 People, Readers' theater
	8	第 8回	12月2日 In a restaurant, Group work for the presentation
	9	第 9回	12月9日 Presentation
	10	第10回	12月16日 In a restaurant
	11	第11回	1月6日 Entertainment
	12	第12回	1月20日 Entertainment
	13	第13回	1月21日 Time for a change
	14	第14回	1月27日 Time for a change
	15	第15回	2月3日 Review
	16	第16回	2月10日 定期試験
キーワード	フレーズリーディング、シャドーイング、リピーティング、ディクテーション		
教科書・教材・参考書	教科書としてJack C. Richards・David Bohlke 著 『Four Corners 2 Student's Book B with Online Workbook』 Cambridge University Press - ISBN: 9781107649750 を使用します。 *第 1 回目の授業までに、必ず生協の販売コーナーで各自購入して下さい。		
成績評価の方法・基準等	定期試験20%、授業中の発表、小テスト、課題(オンラインワークブックを含む)、プレゼンテーション50%、積極的な授業への参加10%、課外学習のe-learning 20%(3 Step CALL10%,PowerWords10%)を総合的に判断します。		
受講要件（履修条件）	教科書、英語辞典（電子辞書も可）を毎回持参、また毎回授業に出席すること（時間厳守）。 学習した内容は、きちんと復習すること！		
本科目の位置づけ	英語コミュニケーションの基礎能力を身につけるストラテジーを習得し、日本人学習者の苦手な音声言語コミュニケーション能力の向上を目指します。		
学習・教育目標	「使える」基礎的なコミュニケーション能力を身につけることを目標とします。		
備考（URL）			
備考（準備学習等）	各自テキスト付属のオンラインワークブック、Self-study CD-ROMを使用し予習、復習をして授業に臨んで下さい。また、課外学習の e-learning に関しては第 1 回目の授業の際に説明します。		





タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	火 1
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20130590005038	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2K3)		
編集担当教員	西原 俊明		
授業担当教員名(科目責任者)	西原 俊明		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	西原 俊明		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養C棟]C-35(call1)		
対象学生（クラス等）	(2K3)		
担当教員Eメールアドレス	t-nishi@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室			
担当教員TEL	095-819-2095		
担当教員オフィスアワー	火曜日12:50～13:30 他は、only by appointment		
授業のねらい	基礎的な英語運用能力を高めることを授業のねらいとする。特に、音声言語によるコミュニケーション能力向上を目指す。また、既習の語彙を用いた表現力の幅をひろげるため、Plain Englishに関する講義を併せて行い、表現力向上を目指す。		
授業方法（学習指導法）	授業の前半では、日本人学習者が抱えるリスニング上の問題点を理解する訓練、速読の訓練、表現力を養うPlain Englishによる表現練習を行う。授業の後半では、前半で行う訓練を発展させた環境系のauthenticな教材・題材を用いた訓練を行う。英語音声学・応用言語学・言語学等の知見を取り入れ、 [^] アワークやインフォメーションギャップを用いたコミュニケーション活動を中心に行う。		
授業到達目標	授業を通して、種々の速読のスキル、リスニングストラテジー、英語によるコミュニケーション活動に慣れ、基礎的なコミュニケーション能力を身につけることを目標とする。		
	回	内容	
	1	10月1日 第1回 オリエンテーション 授業の進め方、授業で取り上げるスキルの概要説明	
	2	10月8日 第2回 英語のリズム(1), 速読(phrase reading)と [^] アワーク(1)	
	3	10月15日 第3回 Voice Aerobics, 速読(phrase reading)と [^] アワーク(1)	
	4	10月22日 第4回 リズムユニットの理解とシャドーイング(1), 速読(phrase reading)	
	5	10月29日 第5回 リズムユニットの理解とシャドーイング(2), 速読(phrase reading)	
	6	11月5日 第6回 弱く発音される音, 速読(phrase reading)	

授業内容	7	11月12日 第7回 インフォメーションギャップによる ^h アワーク(1), 映画による聞き取り(1)
	8	11月19日 第8回 聞こえなくなる音, 映画による聞き取り(2)
	9	11月26日 第9回 インフォメーションギャップによる ^h アワーク(2), 映画による聞き取り(3)
	10	12月3日 第10回 グループによるディスカッション(1), 映画による聞き取り(4)
	11	12月10日 第11回 ひとつになる音, インフォメーションギャップによる ^h アワーク(3), 速読(phrase reading)
	12	12月17日 第12回 つながる音, 映画による聞き取り(5), 速読(phrase reading)
	13	12月24日 第13回 なくなる音, 速読(phrase reading), 映画による聞き取り(6)
	14	1月7日 第14回 英語の音のその他の特徴(prosodic featuresを中心として), グループによるディスカッション(2)
	15	1月14日 Retelling, Summarizing, Review
	16	
キーワード	速読、Plain English、リズムユニット、音変化	
教科書・教材・参考書	プリント教材、及び聞き取り訓練テキスト 速読教材としては、各種英字新聞から環境、水産資源、生物に関わる話題を精選し、教材とする。	
成績評価の方法・基準等	評価は、e-learning学習(3Step Listening +Power Words)(20%)、小テスト(50%)、まとめテスト(20%)、積極的な授業への参加(10%)等を総合的に判断する。3Stepを用いてのe-Learning学習は、15時間の学習を10%、Power Wordsはレベルを一つ上げる学習を10%とする。	
受講要件（履修条件）	新たに学習する内容は、きちんと復習すること！	
本科目の位置づけ	高校までの英語学習の弱点を補うとともに、大学レベルの英語学習に必要なスキルの獲得を目指す。	
学習・教育目標	英語コミュニケーションの基礎的能力を身につけると同時に、日本人学習者の弱点を克服する。	
備考（URL）		
備考（準備学習等）		





タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木 2
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20130590005039	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2F1)		
編集担当教員	小笠原 真司		
授業担当教員名(科目責任者)	小笠原 真司		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	小笠原 真司		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養G棟]G-3A		
対象学生（クラス等）	(2F1)		
担当教員Eメールアドレス	ogasa-s@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	環境科学部1階		
担当教員TEL	095-819-2094		
担当教員オフィスアワー	火4 水3 木3		
授業のねらい	英語でのコミュニケーション活動がスムーズにできるように、基礎的な英語の発音やリズム練習を行います。さらに、リスニングストラテジーに基づいたトレーニングを行い、いろいろな会話場面で十分コミュニケーション活動が行えるようにします。また、日本文化に関して、英語で説明できるような簡単なプレゼンの練習も行い、自信を持って英語を発信できるようにします。		
授業方法（学習指導法）	演習形式で行います。指定されたテキストは、決められた範囲を予習しておくことが必要です。家庭でテキスト付属のCDを利用して、リスニングの問題の解答を作成して、授業に臨んでください。授業では、CDを用いて解答の確認をし、それらの英文の発話練習を行います。また、それらの英文を利用して、ダイアログを作成したり、テキストの英文を参考にして、簡単な日本文化に関するプレゼンの練習をします。また、2回程度、プレゼンテーション用のスピーチ用の英文の原稿を書いてもらい、ペアやグループでの英語によるスピーチ練習をします。		
授業到達目標	テキストの中の重要な英語の構文は、授業中指定されたものはすべて覚えて頭の中に内在化し、自然と発話できるレベルまでにします。英会話レベルを超えて、少し長いレベルの英語も発話できるようにします。また、基本的なリスニングストラテジーを身につけてもらい、簡単な英語ニュースやダイアログなら、内容の概要を聞き取れるようにします。また、簡単なプレゼンを、自信をもって英語でできるようにします。		
	毎回、授業の最初は、課題のe-learning 教材の小テストを行います。その後、CDを聞きながら、予習してきてもらったリスニング問題の解答を行います。その後、テキストを用いて、話すための大切な英語構文を整理しながらCDを用いて、英語を繰り返す練習を行います。これは、リピーティング練習といい、英語の構文を内在化する（身につける）には効果的な練習方法です。この練習を20分程度行い、その後、ダイアログを作成したり、日本文化を語るための簡単な英文を作成したりします。 さらに、応用練習として、ペアやグループになってもらい、課題として作成したプレゼンテーション用の原稿を用いてのスピーチ練習を行います。もちろん、この原稿を書くための指		

授業内容

導も行います。 なお、e-learning 教材を課題学習として、授業外に行ってもらいます。 この授業に関しては、決して受身的な態度で参加しないでください。授業の効果を上げるためにも、学生は極力欠席を避け、積極的に授業に参加してください。毎回、課題がでますので、なによりも家庭学習をきちんとすることが大切です。学生の積極的な取り組みを期待します。真剣に授業に参加し、家庭学習もきちんとすれば、必ず英語の力は向上します。がんばってください。	
回	内容
1	オリエンテーション リピーティング練習体験 機能編：質問する、依頼する、確認する等 日本文化を語る 金沢
2	リピーティング練習1 機能編：あやまる、感謝を表す、賛成する等 日本文化を語る 小笠原諸島
3	リピーティング練習2 主語をつかいこなす 日本文化を語る 長崎県
4	リピーティング練習3 疑問文パターン練習(1) 日本文化を語る 入学式
5	リピーティング練習4 疑問文パターン練習(2) 日本文化を語る 焼酎
6	リピーティング練習5 助動詞の気持ちをつかむ(1) 日本文化を語る 留学
7	リピーティング練習6 助動詞の気持ちをつかむ(2) 日本文化を語る 漫画 スピーチ練習課題A作成指導
8	リピーティング練習7 名詞節が含まれる文(1) 日本文化を語る 祇園祭り スピーチ練習課題A提出
9	リピーティング練習8 名詞節が含まれる文(2) 日本文化を語る 九州 スピーチ練習課題Aを用いたペア練習
10	リピーティング練習9 完了形の文 日本文化を語る 日本人のマナー スピーチ練習課題Aを用いたペア練習
11	リピーティング練習10 進行形、受動態を含んだ文 日本文化を語る 野球
12	リピーティング練習 比較表現 日本文化を語る ラーメン
13	リピーティング練習12 動詞のパターン練習 日本文化を語る 島津斉彬と集成館 スピーチ練習課題B作成指導
14	リピーティング練習13 使役動詞のパターン 日本文化を語る 歌舞伎 スピーチ練習課題B提出 ペア練習
15	リピーティング練習14 知覚動詞のパターンテキスト 日本文化を語る 自動車産業 スピーチ練習課題B ペア練習

	16 定期試験
キーワード	Repeating, Pair Work, Listening Strategies
教科書・教材・参考書	教科書（テキスト）： Let's Make a Skit Presentation! （英宝社） ￥1,800
成績評価の方法・基準等	成績評価は、 ○定期試験50%、プレゼンペーパー20% 授業でのアクティビティ10% e-learning 20% で行います。 e-learning の内容に関しては、1回目の授業時に説明します。
受講要件（履修条件）	全回出席が原則。教科書も必ず購入すること。
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考（URL）	
備考（準備学習等）	





タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 英語科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 1
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード	20130590005040	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ(2E2)		
編集担当教員	小笠原 真司		
授業担当教員名(科目責任者)	小笠原 真司		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	小笠原 真司		
科目分類	B科目 外国語 既習、外国語科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	演習科目
教室	[教養C棟]C-35(call1)		
対象学生（クラス等）	(2E2)		
担当教員Eメールアドレス	ogasa-s@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	環境科学部1階		
担当教員TEL	095-819-2094		
担当教員オフィスアワー	火4 水3 木3		
授業のねらい	英語でのコミュニケーション活動がスムーズにできるように、基礎的な英語の発音やリズム練習を行います。さらに、リスニングストラテジーに基づいたトレーニングを行い、いろいろな会話場面で十分コミュニケーション活動が行えるようにします。また、日本文化に関して、英語で説明できるような簡単なプレゼンの練習も行い、自信を持って英語を発信できるようにします。		
授業方法（学習指導法）	演習形式で行います。指定されたテキストは、決められた範囲を予習しておくことが必要です。家庭でテキスト付属のCDを利用して、リスニングの問題の解答を作成して、授業に臨んでください。授業では、CDを用いて解答の確認をし、それらの英文の発話練習を行います。また、それらの英文を利用して、ダイアログを作成したり、テキストの英文を参考にして、簡単な日本文化に関するプレゼンの練習をします。また、2回程度、プレゼンテーション用のスピーチ用の英文の原稿を書いてもらい、ペアやグループでの英語によるスピーチ練習をします。		
授業到達目標	テキストの中の重要な英語の構文は、授業中指定されたものはすべて覚えて頭の中に内在化し、自然と発話できるレベルまでにします。英会話レベルを超えて、少し長いレベルの英語も発話できるようにします。また、基本的なリスニングストラテジーを身につけてもらい、簡単な英語ニュースやダイアログなら、内容の概要を聞き取れるようにします。また、簡単なプレゼンを、自信をもって英語でできるようにします。		
	毎回、授業の最初は、課題のe-learning 教材の小テストを行います。その後、CDを聞きながら、予習してきてもらったリスニング問題の解答を行います。その後、テキストを用いて、話すための大切な英語構文を整理しながらCDを用いて、英語を繰り返す練習を行います。これは、リピーティング練習といい、英語の構文を内在化する（身につける）には効果的な練習方法です。この練習を20分程度行い、その後、ダイアログを作成したり、日本文化を語るための簡単な英文を作成したりします。 さらに、応用練習として、ペアやグループになってもらい、課題として作成したプレゼンテーション用の原稿を用いてのスピーチ練習を行います。もちろん、この原稿を書くための指		

授業内容

導も行います。	
なお、e-learning 教材を課題学習として、授業外に行ってもらいます。	
この授業に関しては、決して受身的な態度で参加しないでください。授業の効果を上げるためにも、学生は極力欠席を避け、積極的に授業に参加してください。毎回、課題がでますので、なによりも家庭学習をきちんとすることが大切です。学生の積極的な取り組みを期待します。真剣に授業に参加し、家庭学習もきちんとすれば、必ず英語の力は向上します。がんばってください。	
回	内容
1	オリエンテーション リピーティング練習体験 機能編：質問する、依頼する、確認する等 日本文化を語る 金沢
2	リピーティング練習1 機能編：あやまる、感謝を表す、賛成する等 日本文化を語る 小笠原諸島
3	リピーティング練習2 主語をつかいこなす 日本文化を語る 長崎県
4	リピーティング練習3 疑問文パターン練習(1) 日本文化を語る 入学式
5	リピーティング練習4 疑問文パターン練習(2) 日本文化を語る 焼酎
6	リピーティング練習5 助動詞の気持ちをつかむ(1) 日本文化を語る 留学
7	リピーティング練習6 助動詞の気持ちをつかむ(2) 日本文化を語る 漫画 スピーチ練習課題A作成指導
8	リピーティング練習7 名詞節が含まれる文(1) 日本文化を語る 祇園祭り スピーチ練習課題A提出
9	リピーティング練習8 名詞節が含まれる文(2) 日本文化を語る 九州 スピーチ練習課題Aを用いたペア練習
10	リピーティング練習9 完了形の文 日本文化を語る 日本人のマナー スピーチ練習課題Aを用いたペア練習
11	リピーティング練習10 進行形、受動態を含んだ文 日本文化を語る 野球
12	リピーティング練習 比較表現 日本文化を語る ラーメン
13	リピーティング練習12 動詞のパターン練習 日本文化を語る 島津斉彬と集成館 スピーチ練習課題B作成指導
14	リピーティング練習13 使役動詞のパターン 日本文化を語る 歌舞伎 スピーチ練習課題B提出 ペア練習
15	リピーティング練習14 知覚動詞のパターンテキスト 日本文化を語る 自動車産業 スピーチ練習課題B ペア練習

	16 定期試験
キーワード	Repeating, Pair Work, Listening Strategies
教科書・教材・参考書	教科書（テキスト）： Let's Make a Skit Presentation! （英宝社） ￥1,800
成績評価の方法・基準等	成績評価は、 ○定期試験50%、プレゼンペーパー20% 授業でのアクティビティ10% e-learning 20% で行います。 e-learning の内容に関しては、1回目の授業時に説明します。
受講要件（履修条件）	全回出席が原則。教科書も必ず購入すること。
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考（URL）	
備考（準備学習等）	

